令和２年度

人権に関する市民の意識調査報告書

概要版

高　知　市

2020（令和2）年１１月

目　次

Ⅰ　調査概要 1
1 調査の目的 1
2 調査の方法 1
3 回収状況 1
4 注意事項 2

Ⅱ　回答者の属性 3
1 年代別構成 3
2 性別構成 3

Ⅲ　調査結果 4
1　人権全般 4
（1）問１　人権が尊重されているまちだと思うか 4
（2）問２　人権意識の変化 5
（3）問３　関心のある人権問題 6
（4）問４　人権侵害の経験 7
（5）問４－１　人権が侵害されたと思った内容 8
（6）問４－２　人権侵害を受けた時の対処 9
（7）問４－３　人権侵害を受けた時の相談先 10
（8）問４－４　相談しなかった理由 11
2　同和問題 12
（1）問５　同和問題（部落差別）を知っているか 12
（2）問５－１　同和地区（部落差別）を知ったきっかけ 13
（3）問５－２　同和地区（部落差別）についての学習経験 14
（4）問５－３　同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別が存在すると思うか 15
（5）問５－４　同和地区や同和地区出身者ということを気にしたり、意識する場合 16
（6）問５－５　実際に部落差別について見聞きしたことがあるか 17
（7）問５－６　実際に部落差別について見聞きした内容 18
（8）問５－７　同和問題の解決のために必要だと思うこと 20
3　女性 21
（1）問６　女性に関する事柄で、人権上問題があると思われること 21
（2）問７　女性の人権を守るために必要だと思われること 22
4　子ども 23
（1）問８　子どもに関する事柄で、人権上問題があると思われること 23
（2）問９　子どもの人権を守るために必要だと思われること 24

５　高齢者 25
（１）問10　高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われること 25
（２）問11　高齢者の人権を守るために必要だと思われること 26
６　障がいのある人 27
（１）問12　障がいのある人に関する事柄で、人権上問題があると思われること 27
（２）問13　障がいのある人の人権を守るために必要だと思われること 28
７　外国人 29
（１）問14　外国人に関する事柄で、人権上問題があると思われること 29
（２）問15　外国人の人権を守るために必要だと思われること 30
８　感染症患者等 31
（１）問16　感染症患者等に関する事柄で、人権上問題があると思われること 31
（２）問17　感染症患者等の人権を守るために必要だと思われること 32
９　性的指向・性自認 33
（１）問18　ＬＧＢＴ等の性的少数者に関する事柄で、人権上問題があると思われること 33
（２）問19　ＬＧＢＴ等の性的少数者について、どのような考えを持っているか 34
（３）問20　ＬＧＢＴ等の性的少数者の人権を守るために必要だと思われること 35
10　インターネットにおける人権侵害 36
（１）問21　インターネットにおける人権侵害に関する事柄で、問題があると思われること 36
（２）問22　インターネットにおける人権侵害について、どのような考えを持っているか 37
11　職場の人権 38
（１）問23　職場の人権に関する事柄で、人権上問題があると思われること 38
（２）問24　職場の人権を守るために必要だと思われること 39
12　犯罪被害者等 40
（１）問25　犯罪被害者等の人権に関する事柄で、人権上問題があると思われること 40
（２）問26　犯罪被害者等の人権を守るために必要だと思われること 41
13　災害と人権 42
（１）問27　災害に関する事柄で、人権上問題があると思われること 42
（２）問28　災害時に人権を守るために必要だと思われること 43
14　今後の人権教育・啓発のあり方に関する意識等 44
（１）問29　人権尊重の考え方に強い影響を受けたもの 44
（２）問29－１　人権尊重の考え方に強い影響を受けたものの内容 45
（３）問30　人権尊重の社会実現のために必要なこと 47
（４）問31　人権に関する宣言等や取組について知っているか 48

Ⅰ　調査概要

Ⅰ　調査概要

1　調査の目的

高知市民の人権に関する意識の現状把握を行い、今後の人権施策を推進していくための基礎資料とすることを目的に、「人権に関する市民の意識調査」を実施しました。

2　調査の方法

・調査地域　　高知市内全域

・調査対象　　高知市在住の満 20 歳から 79 歳までの男女 3,000 人
（女性 1,564 人、男性 1,436 人）

・抽出方法　　住民基本台帳マスターファイルより無作為抽出

・抽 出 日　　令和2年6月18日

＜年代別性別抽出状況＞

年代	総数	女性	男性
20 歳代	354 人	174 人	180 人
30 歳代	435 人	223 人	212 人
40 歳代	606 人	309 人	297 人
50 歳代	528 人	274 人	254 人
60 歳代	532 人	282 人	250 人
70 歳代	545 人	302 人	243 人
合計	3, 000 人	1, 564 人	1, 436 人

・調査方法　　郵送調査法

・調査期間　　令和2年6月 30 日～令和2年7月 20 日

3　回収状況

・有効回収数　　1,143 人（女性 688 人、男性 419 人、性別無回答 36 人）

・有効回収率　　38.1％（女性 44.0％、男性 29.2％）
※年齢・性別不明を含めた回収率

＜年代別性別回収状況＞

年代	女性			男性			無回答・その他
	抽出数	回答数	回答率	抽出数	回答数	回答率	回答数
20歳代	174	43	24.7	180	32	17.8	6
30歳代	223	84	37.7	212	43	20.3	1
40歳代	309	136	44.0	297	73	24.6	6
50歳代	274	119	43.4	254	76	29.9	7
60歳代	282	157	55.7	250	93	37.2	5
70歳代	302	148	49.0	243	102	42.0	4
無回答・その他	−	1	−	−	−	−	7
合計	1,564	688	44.0	1,436	419	29.2	36

4 注意事項

○図表中の「n」（Number of samples の略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数です。

○図表中の構成比（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しています。

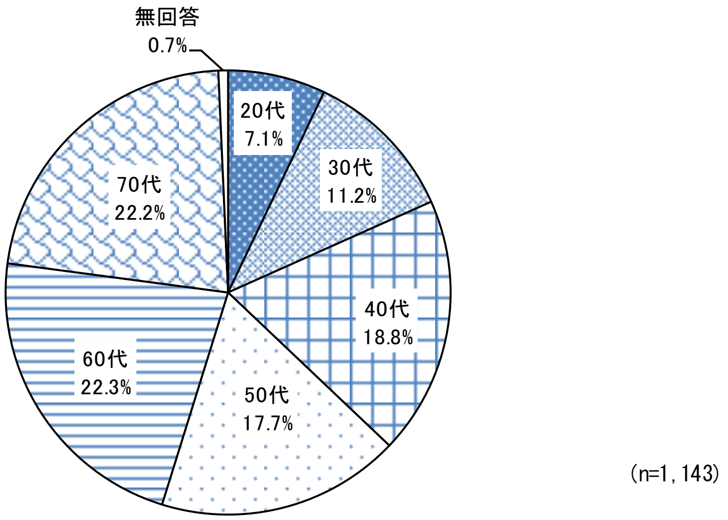
○複数回答の設問は、回答が2つ以上ありうるので、合計は 100%を超えることもあります。

○各設問の集計は、無回答を含めて集計しています。

Ⅱ　回答者の属性

Ⅱ　回答者の属性

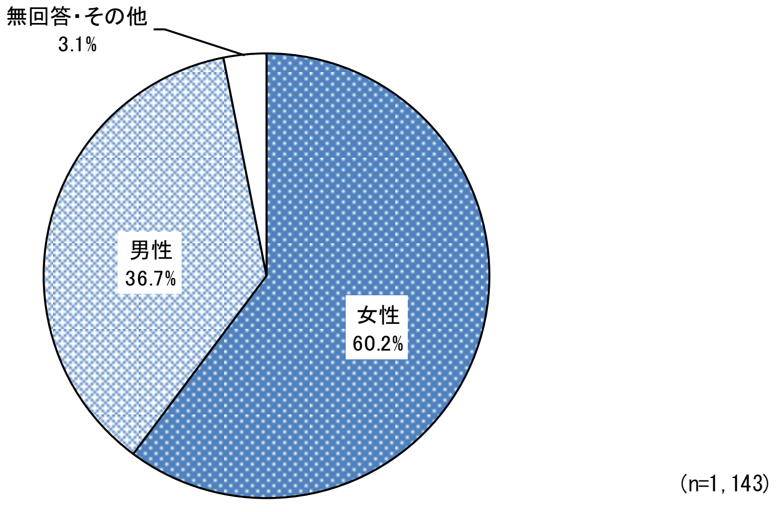
1 年代別構成



年代別構成は、「60 代」が 22.3%と最も高く、次いで「70 代」が 22.2%、「40 代」が 18.8%となっており、60 代以上が 44.5%を占めている。

一方、「20 代」は 7.1%、「30 代」は 11.2%と 30 代以下の若年者は 18.3%となっている。

2 性別構成



性別構成では、「女性」60.2%、「男性」が 36.7%となっている。

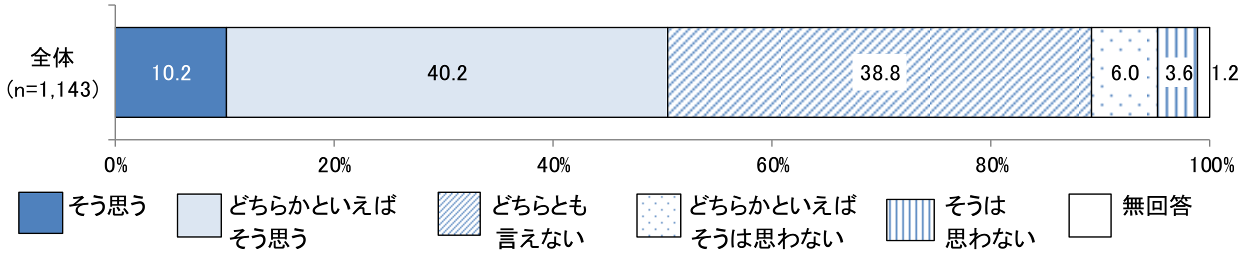
Ⅲ　調査結果

Ⅲ　調査結果

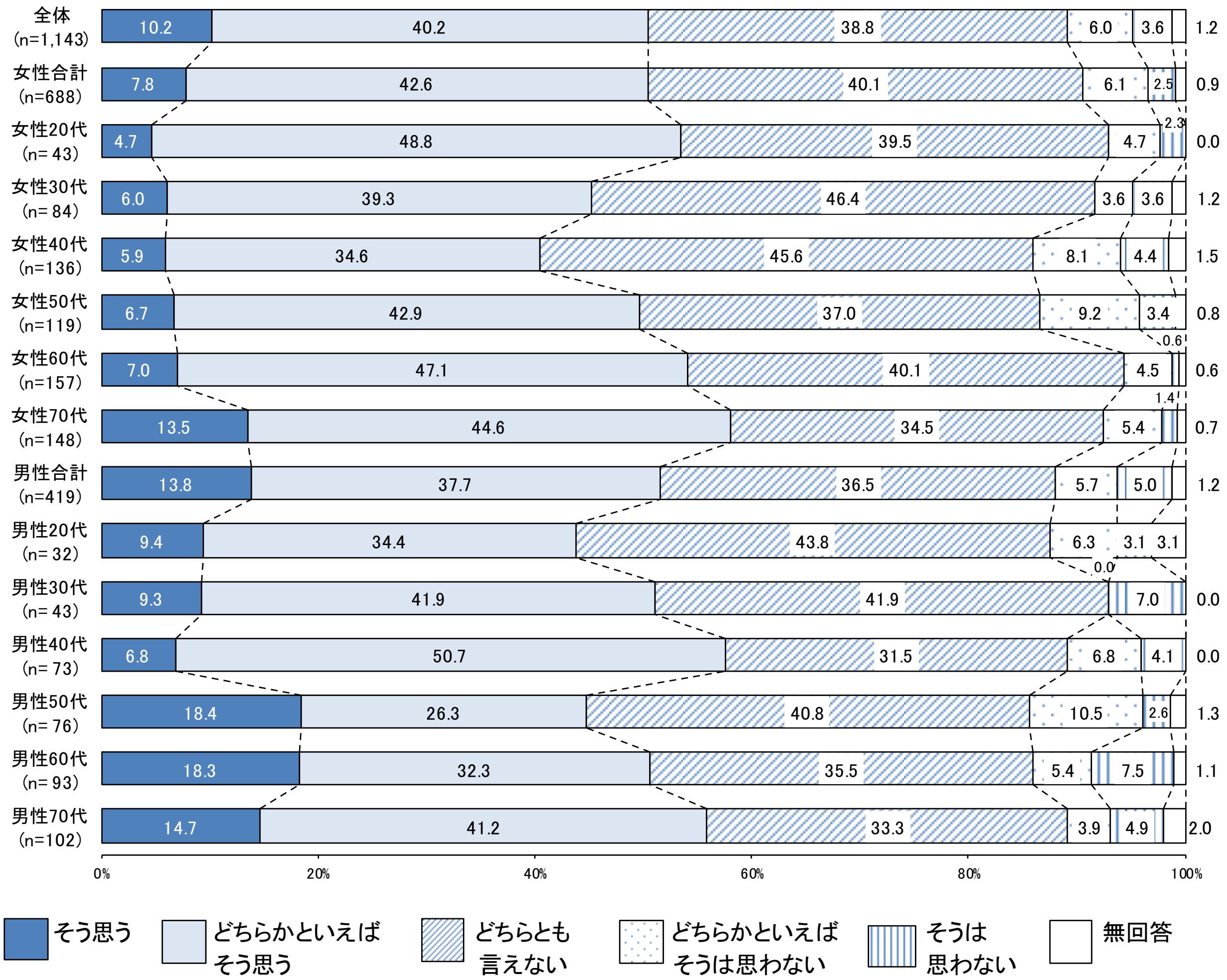
1　人権全般

（1）問１　人権が尊重されているまちだと思うか

問１　あなたは、「今の高知市は、市民一人ひとりの人権が尊重されているまちである」と思いますか。（〇は１つ）



今の高知市は、市民一人ひとりの人権が尊重されているまちであるかをみると、「どちらかといえばそう思う」の割合が 40.2%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 38.8%、「そう思う」10.2%となっている。

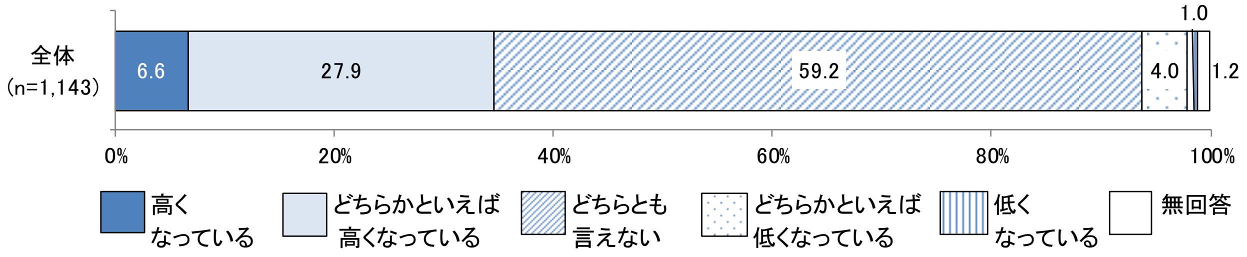


性別でみると、“思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた）”の割合は、女性 50.4%、男性 51.5%と、性別による大きな差はみられないが、「そう思う」は女性（7.8%）より男性（13.8%）が6ポイント高くなっている。

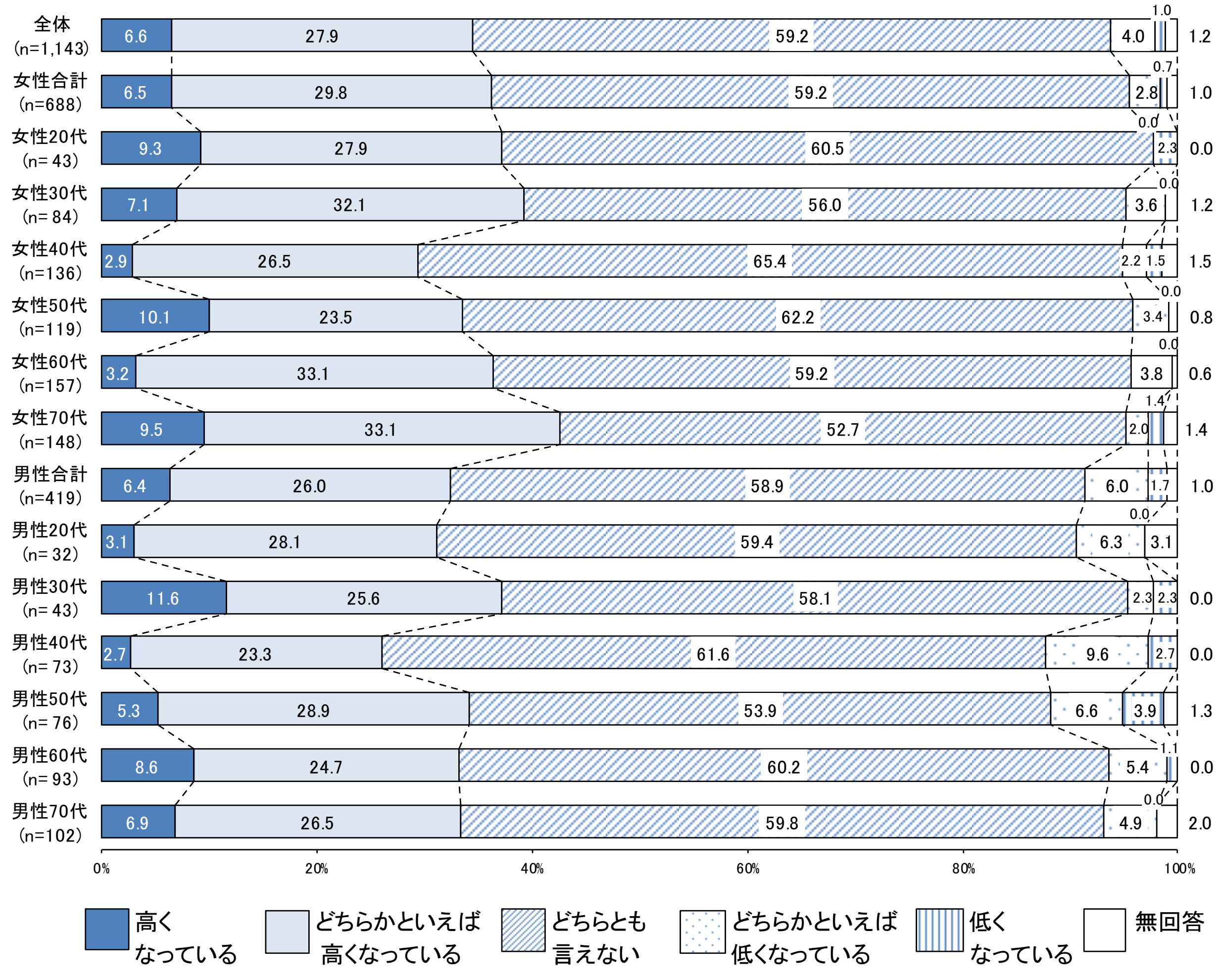
性・年代別でみると、全ての年代で「そう思う」の割合は、女性より男性が高くなっている。

（２）問２　人権意識の変化

問２　あなたは、「市民一人ひとりの人権意識は、５～６年前に比べて高くなっている」と思いますか。（○は１つ）



市民一人ひとりの人権意識の高まりについてみると、「どちらとも言えない」の割合が 59.2％で最も高く、次いで「どちらかといえば高くなっている」が 27.9％、「高くなっている」6.6％となっている。

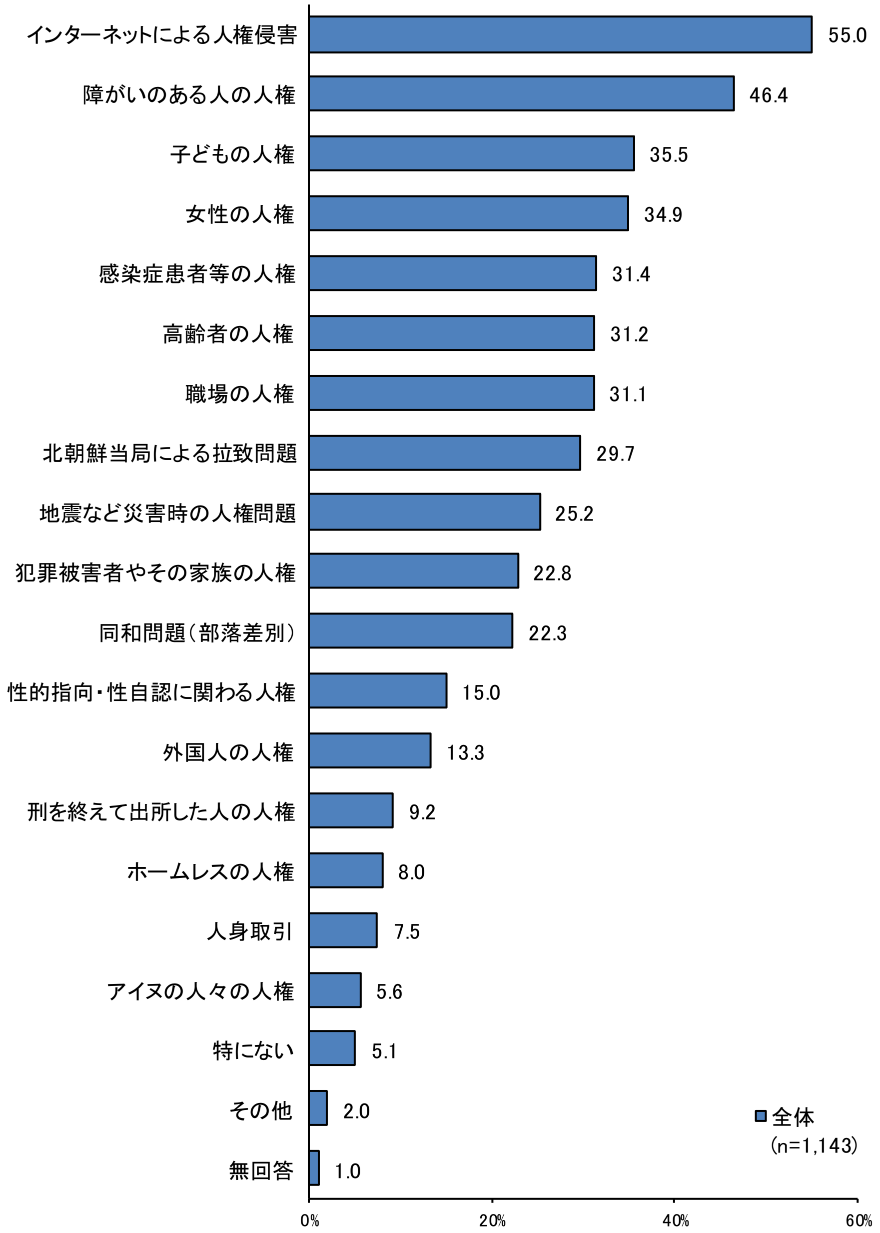


性別でみると、“高い（「高くなっている」と「どちらかといえば高くなっている」を合わせた）”の割合は、男性（32.4％）より女性（36.3％）が約４ポイント高く、“低い（「どちらかといえば低くなっている」と「低くなっている」を合わせた）”の割合は、女性（3.5％）より男性（7.7％）が約４ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高い」は 50 代女性を除く全ての年代で、男性より女性の割合が高く、「低い」は全ての年代で女性より男性の割合が高くなっている。

（３）問３　関心のある人権問題

問３　あなたが関心のある人権問題は、次のどれですか。（○はいくつでも）

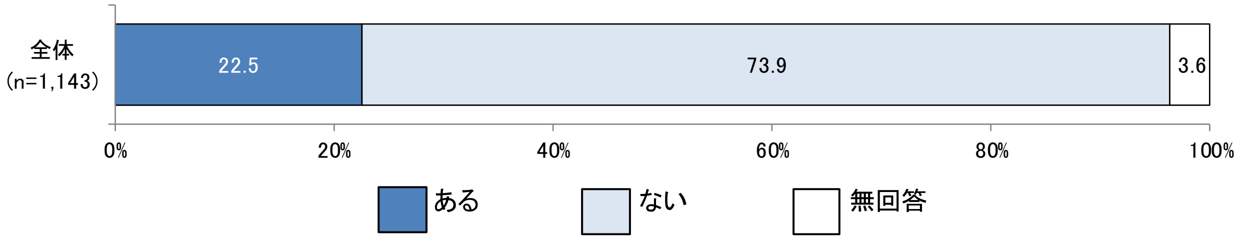


（注）複数回答のため合計は100%を超えます。

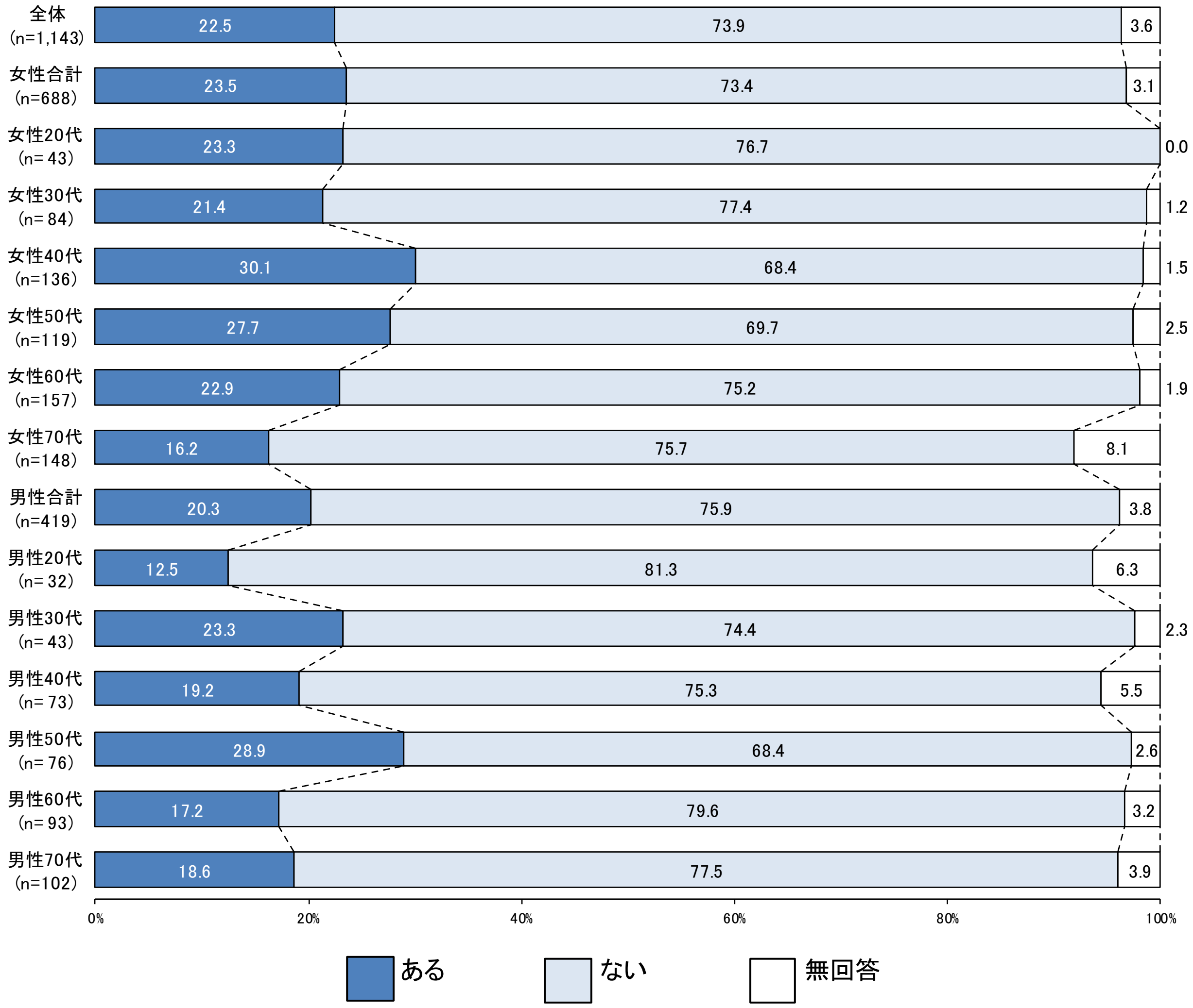
関心のある人権問題をみると、「インターネットによる人権侵害」の割合が 55.0％で最も高く、唯一５割を超えており、次いで「障がいのある人の人権」が 46.4％、「子どもの人権」35.5％となっている。

（４）問４　人権侵害の経験

問４　あなた自身やご家族の人権が侵害された、あるいはそう感じたことがありますか。（○は１つ）



ご自身やご家族の人権が侵害された、あるいはそう感じた事についてみると、「ない」は 73.9%、「ある」は 22.5%となっている。

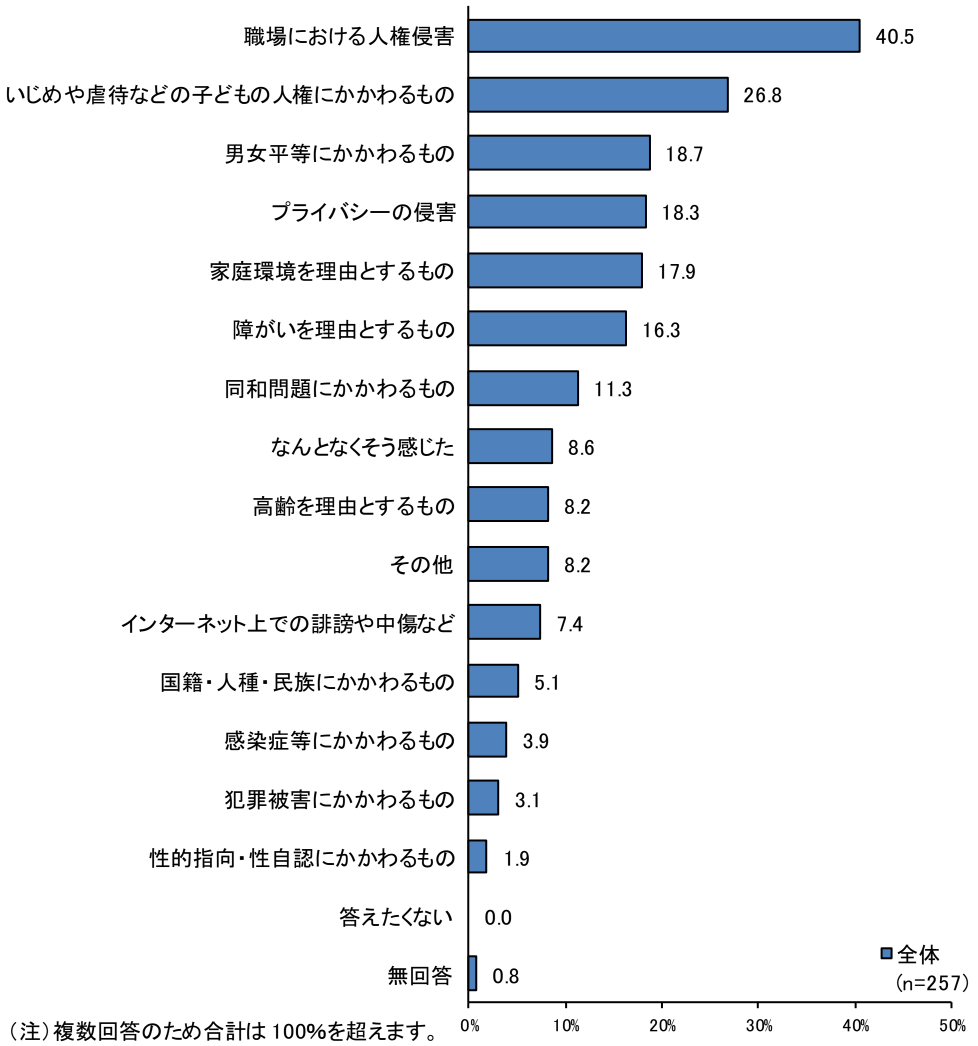


性別でみると、大きな差はみられなかった。

性・年代別でみると、「ある」は 40 代女性（30.1%）、50 代男性（28.9%）で最も高く、「ない」は 30 代女性（77.4%）、20 代男性（81.3%）で最も高くなっている。

（5）問４－１　人権が侵害されたと思った内容

問４－１　（問４で「ある」とお答えの方に） それはどのような人権侵害でしたか。（○はいくつでも）

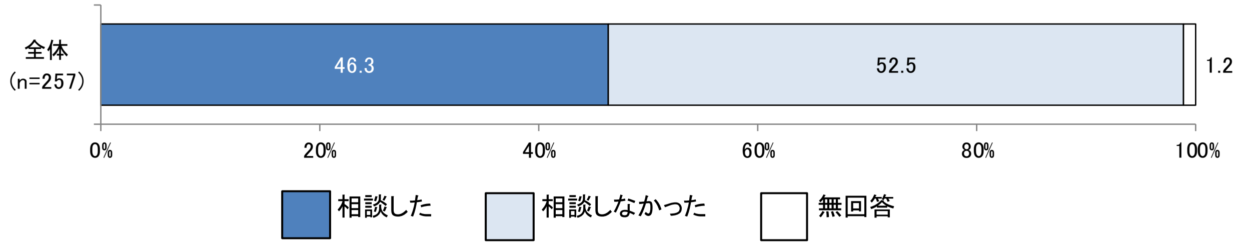


（注）複数回答のため合計は100%を超えます。

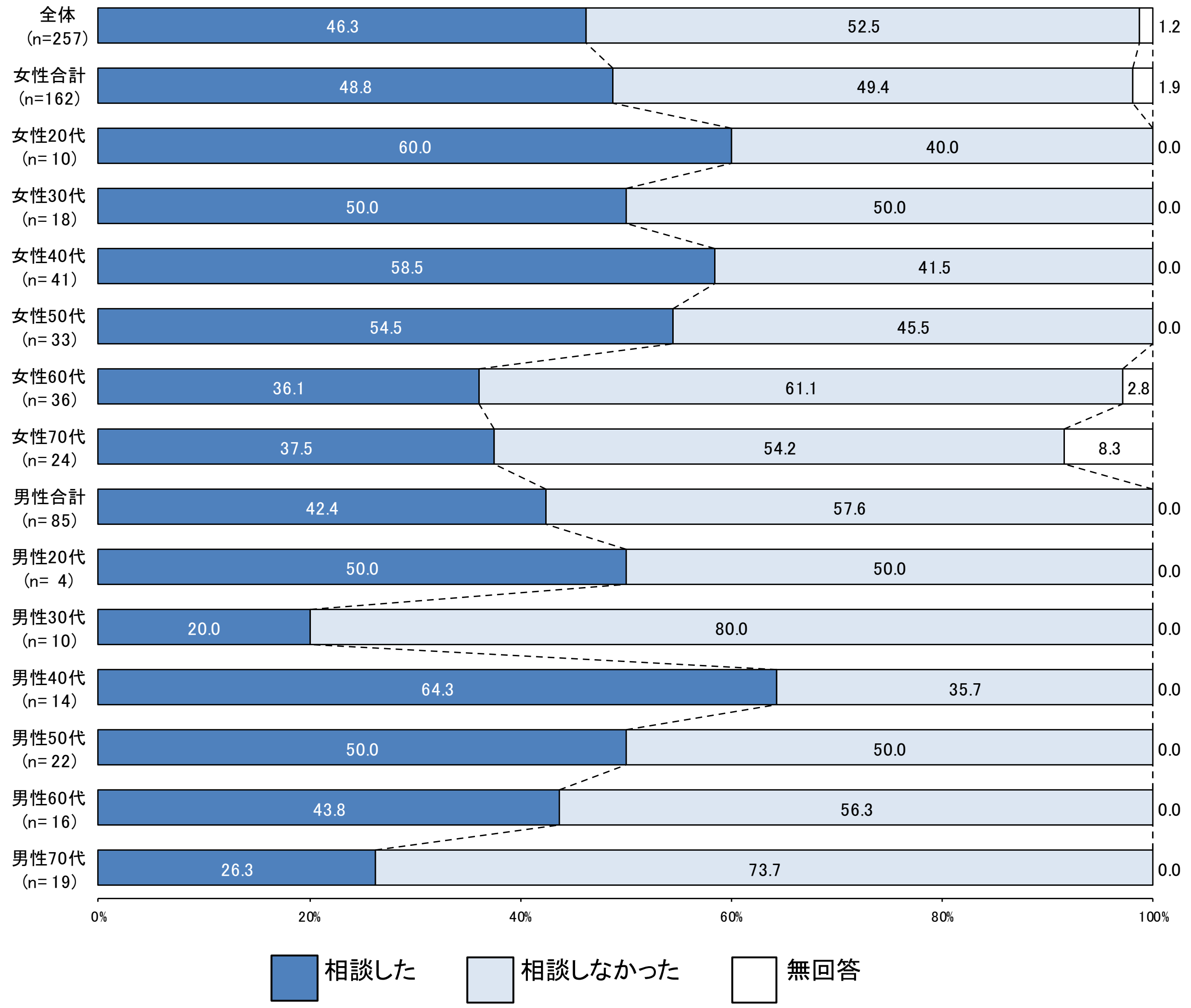
人権侵害の内容をみると、「職場における人権侵害」の割合が 40.5％で最も高く、次いで「いじめや虐待などの子どもの人権にかかわるもの」が 26.8％、「男女平等にかかわるもの」18.7％の順となっている。

（６）問４－２　人権侵害を受けた時の対処

問４－２　（問４で「ある」とお答えの方に） その時、どこ（誰）かに相談されましたか。（○は１つ）



人権侵害を受けた時の相談状況についてみると、「相談しなかった」が 52.5%、「相談した」が 46.3%となっている。

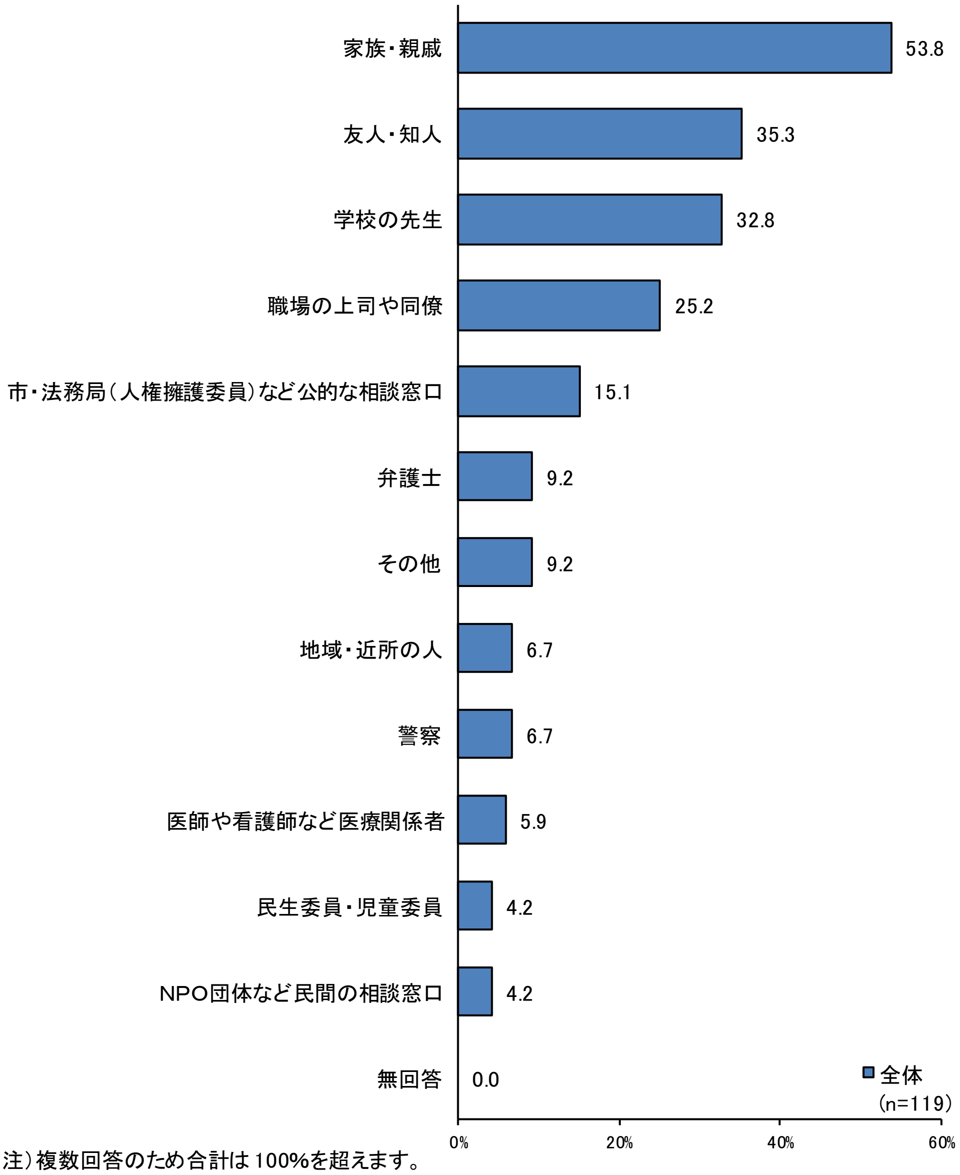


性別でみると、「相談した」割合は、男性（42.4%）より女性（48.8%）が 6.4 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「相談した」割合は、20 代女性で 60.0%、40 代男性で 64.3%と最も高く、「相談しなかった」割合は、60 代女性で 61.1%、30 代男性で 80.0%と最も高くなっている。

（７）問４－３　人権侵害を受けた時の相談先

問４－３	（問４－２で「相談した」とお答えの方に） どこ（誰）に相談しましたか。（○はいくつでも）

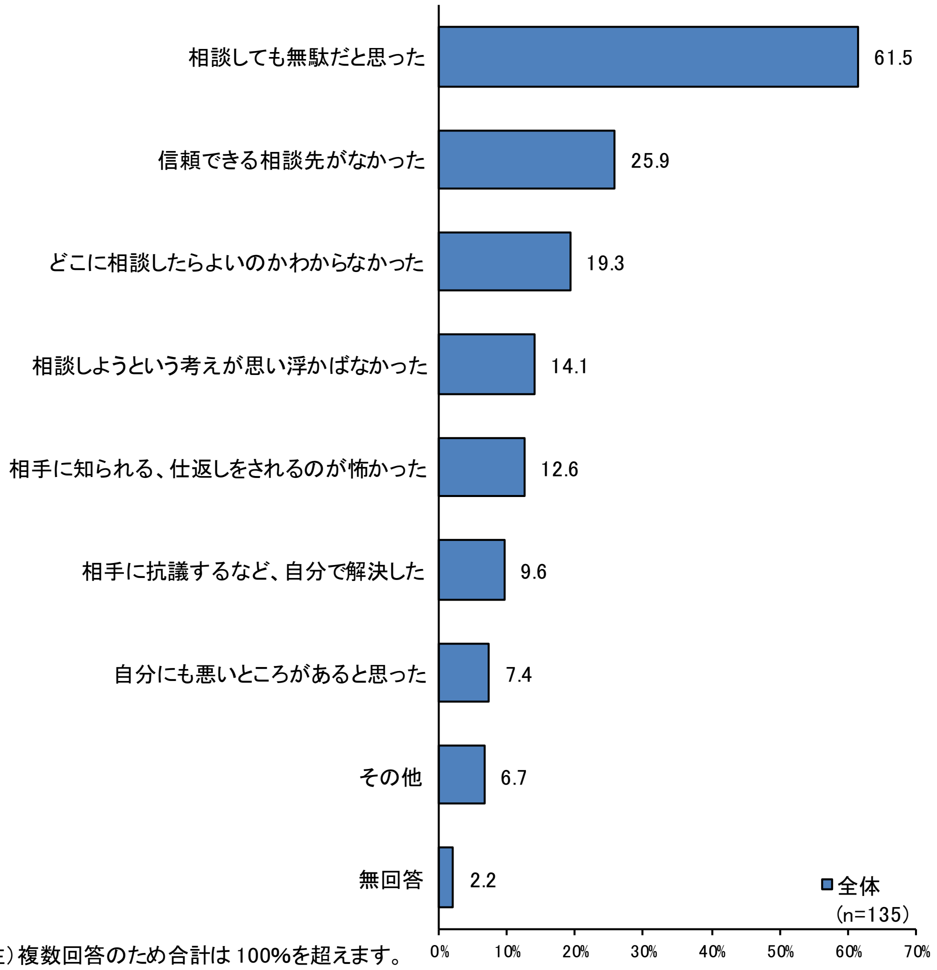


（注）複数回答のため合計は100%を超えます。

相談先についてみると、「家族・親戚」の割合が53.8%と最も高く、唯一５割を超えており、次いで「友人・知人」が35.3%、「学校の先生」32.8%の順となっている。

（８）問４－４　相談しなかった理由

問４－４　（問４－２で「相談しなかった」とお答えの方に） 相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）



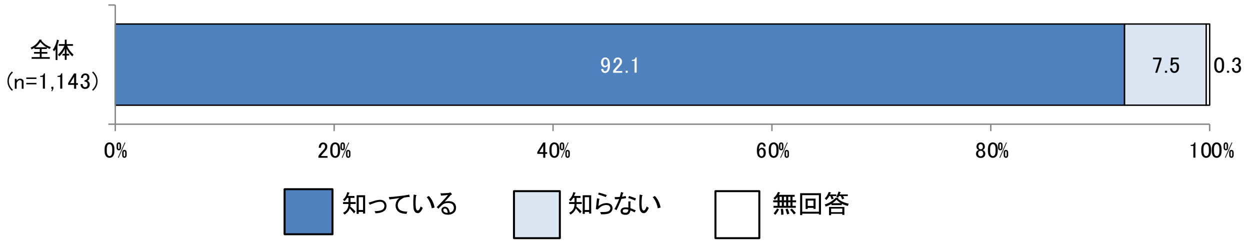
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

相談しなかった理由についてみると、「相談しても無駄だと思った」の割合が 61.5%で最も高く、次いで「信頼できる相談先がなかった」が 25.9%、「どこに相談したらよいのかわからなかった」19.3%の順となっている。

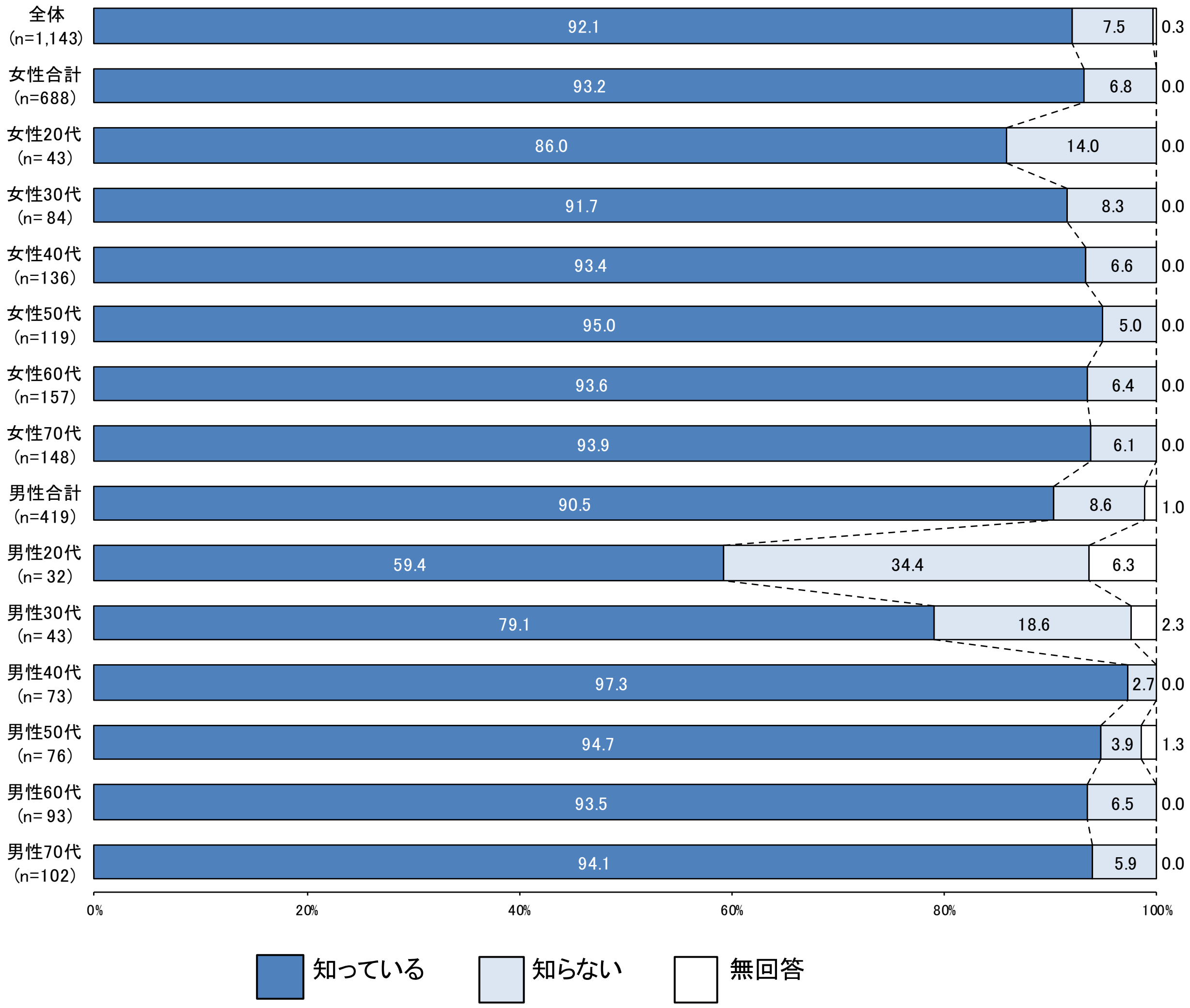
2　同和問題

（１）問５　同和問題（部落差別）を知っているか

問５　あなたは、同和問題（部落差別）について、知っていますか。（○は１つ）



同和問題の認知度についてみると、「知っている」の割合が 92.1%、「知らない」が 7.5%となっている。

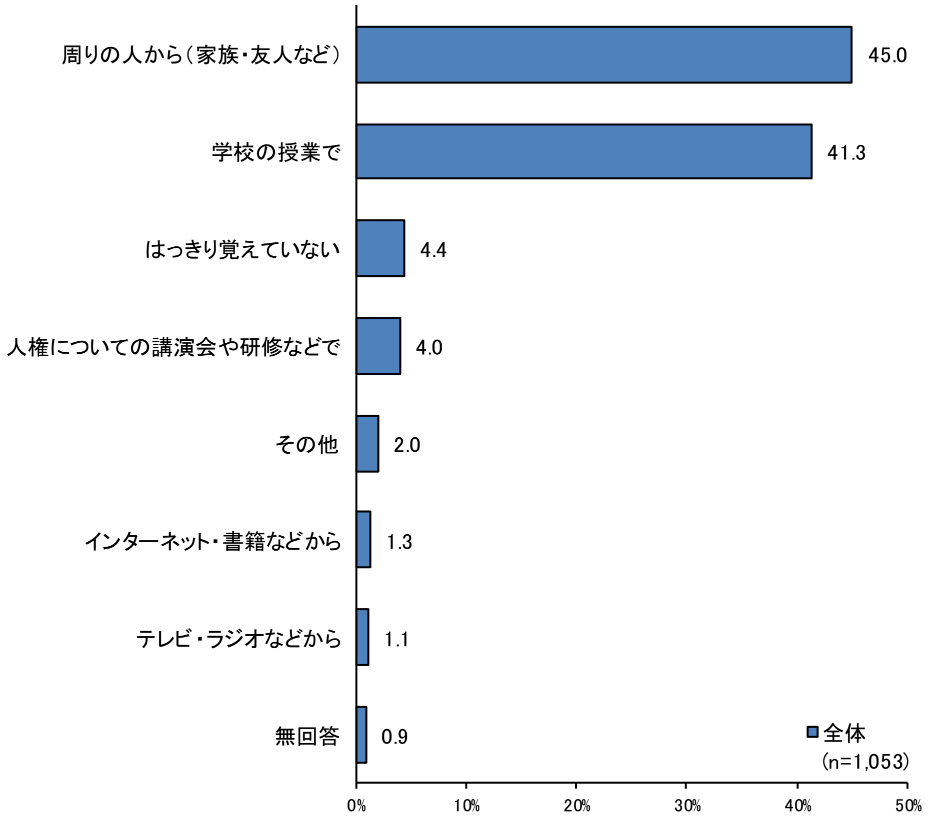


性別でみると、女性・男性ともに「知っている」の割合が９割を超えており、性別による大きな差はみられない。

性・年代別でみると、女性・男性ともに年代が高いほど「知っている」の割合が高い傾向がみられる。

（２）問５－１　同和地区（部落差別）を知ったきっかけ

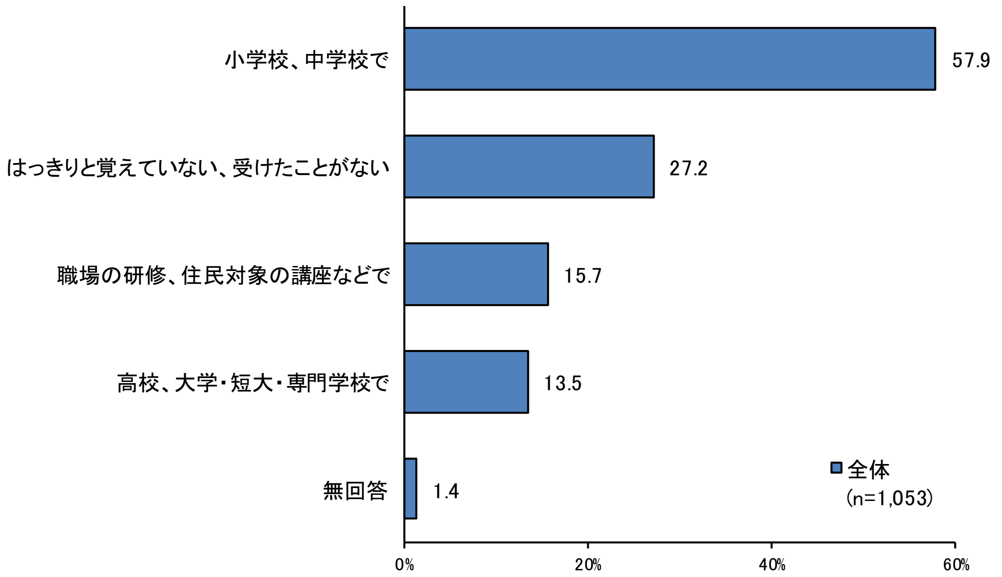
問５－１　（問５で「知っている」とお答えの方に） あなたが同和問題（部落差別）について知った、主なきっかけは何ですか。（○は１つ）



同和問題を知った主なきっかけについてみると、「周りの人から（家族・友人など）」の割合が45.0％で最も高く、次いで「学校の授業で」が41.3％、「はっきり覚えていない」4.4％の順となっている。

（３）問５－２　同和地区（部落差別）についての学習経験

問５－２	（問５で「知っている」とお答えの方に） あなたは、同和問題（部落差別）について学校や職場、地域等で、学習したことがありますか。（あてはまる番号すべてに○）

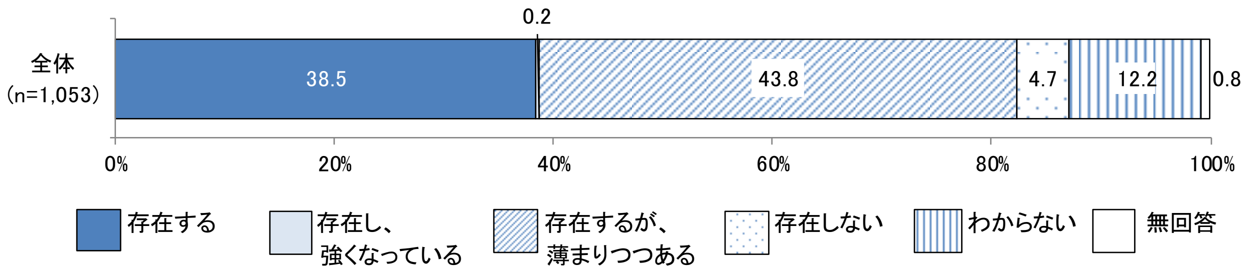


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

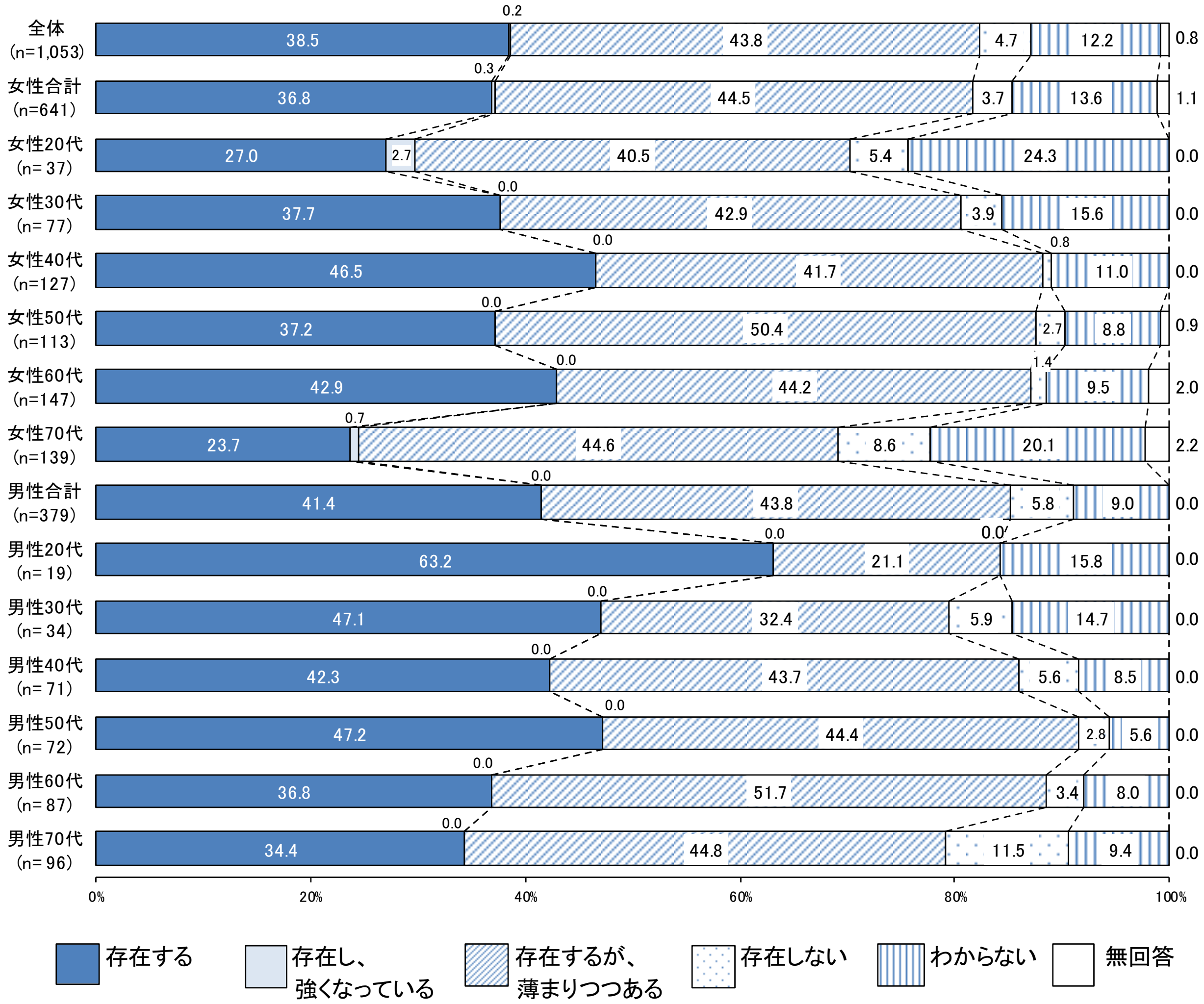
同和問題の学習についてみると、「小学校、中学校で」の割合が 57.9％で最も高く、次いで「はっきりと覚えていない、受けたことがない」が 27.2％、「職場の研修、住民対象の講座などで」15.7％となっている。

（４）問５－３　同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別が存在すると思うか

問５－３　（問５で「知っている」とお答えの方に） あなたは、社会の中に同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別が存在すると思いますか。（○は１つ）



同和地区や同和地区出身者に対する偏見や差別の有無についてみると、「存在するが、薄まりつつある」の割合が 43.8%で最も高く、次いで「存在する」が 38.5%、「わからない」12.2%となっている。

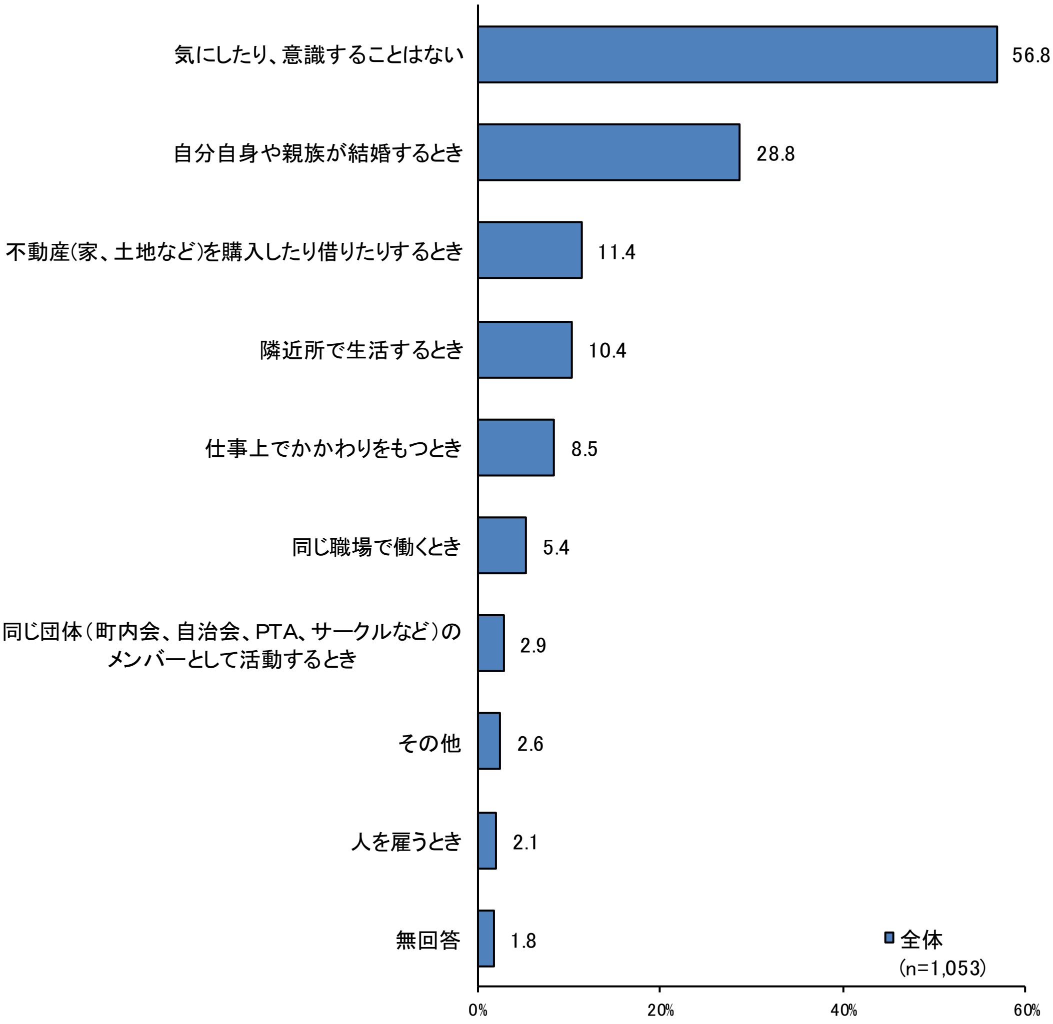


性別でみると、女性・男性ともに上位３項目は同じだが、「存在する」の割合は、女性（36.8%）より男性（41.4%）が約５ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「わからない」の割合は、いずれの年代も男性より女性が高く、20 代女性で 24.3%と最も高くなっている。

（5）問５－４　同和地区や同和地区出身者ということを気にしたり、意識する場合

問５－４	（問５で「知っている」とお答えの方に） あなたは、同和地区や同和地区出身者ということを気にしたり、意識したりすることがありますか。（○はいくつでも）

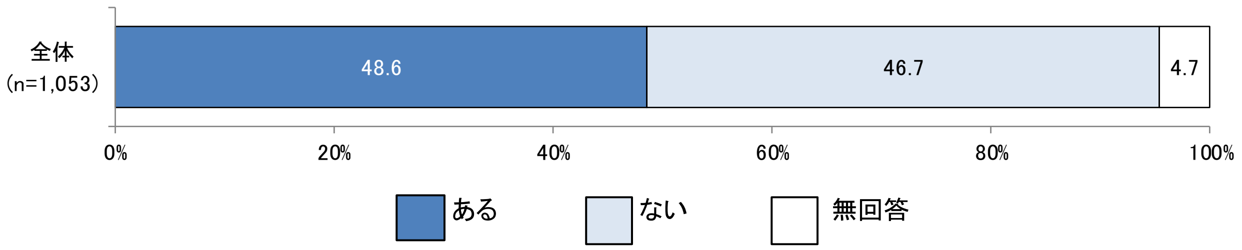


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

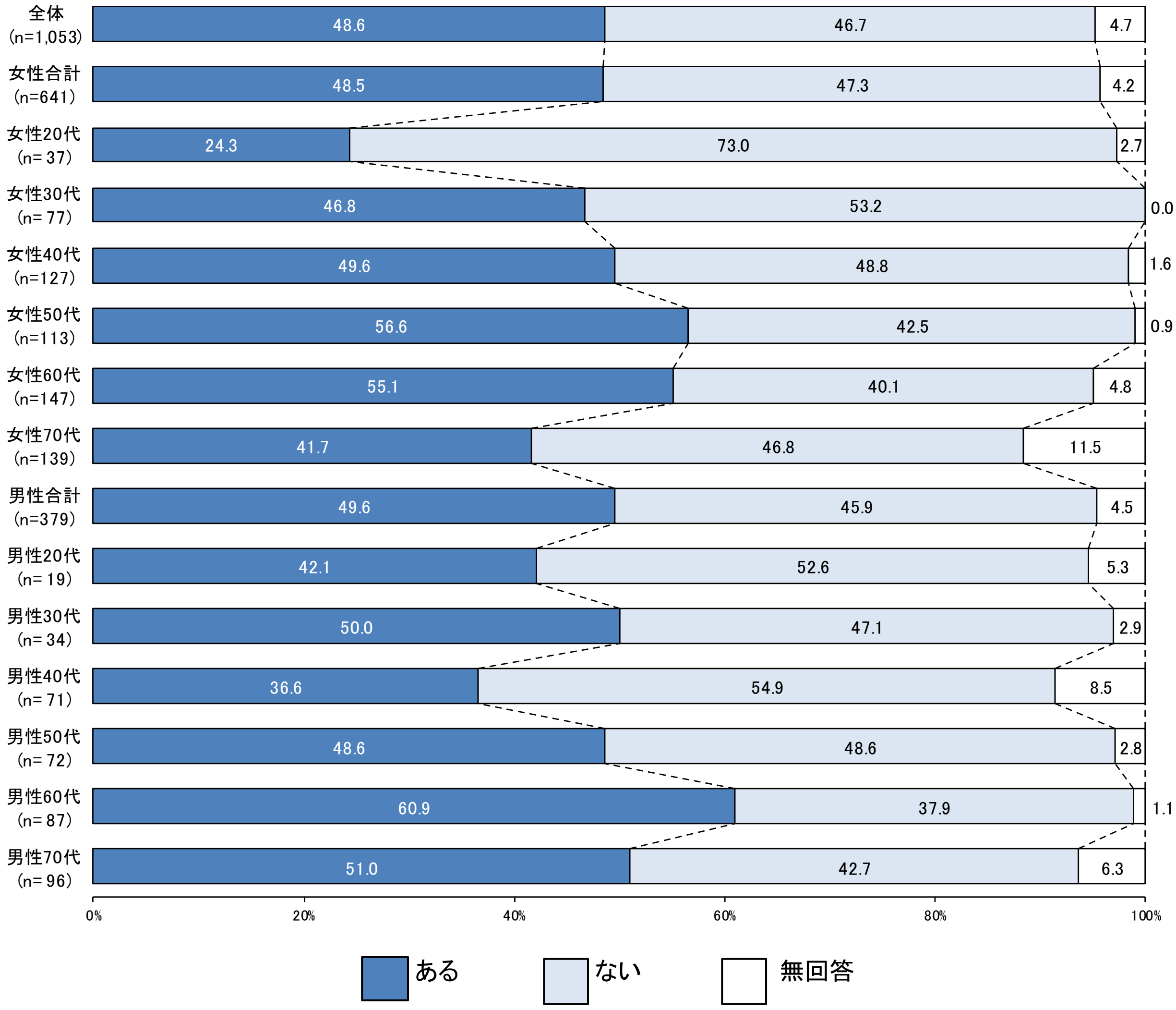
同和地区や同和地区出身者ということを気にしたり、意識したりすることについてみると、「気にしたり、意識することはない」の割合が 56.8％で最も高く、次いで「自分自身や親族が結婚するとき」が 28.8％、「不動産（家、土地など）を購入したり借りたりするとき」11.4％となっている。

（６）問５－５　実際に部落差別について見聞きしたことがあるか

問５－５	（問５で「知っている」とお答えの方に） あなたは実際に部落差別について見聞きしたことがありますか。（○は１つ）



部落差別について見聞きしたことがあるかについてみると、「ある」の割合が 48.6%、「ない」が 46.7% となっている。



性別でみると、性別による大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「ある」の割合は 60 代男性で 60.9%と最も高く、「ない」の割合は 20 代女性で 73.0%と最も高くなっている。

（7）問５－６　実際に部落差別について見聞きした内容

問５－６　（問５－５で「ある」とお答えの方に） **それはどのような内容でしたか。お構いない範囲でご記入ください。**

部落差別を見聞きした内容に関しては 382 件あり、その内容を分類した結果は以下のとおりである。

【結婚について　126 件】(一部抜粋)
・親友の結婚の時、相手の出生地を調べた
・友達の結婚相手が親に反対された
・親族の結婚の時、相手の出身地を気にする身内がいた
・自分の母が独身時代に交際していた相手が同和地区出身者とわかり、別れさせられた
・自身が結婚する時、親族より確認を求められた
・子供が結婚する時に、相手が部落出身でないか調べたという人がいた
・最近あまり無いが、２～30 年位以前には結婚などについて耳にした
・両親が昔、結婚の時にお互い裏で調べられたなどと言っていた
・知人の子供が結婚する事になった時に相手が同和地区出身者である事がわかり、悩んでいた
・娘が結婚するときに部落出身でないか聞かれた
・同和教育を受けていない高齢者の中には、今だに気にする人がいる

【就職について　5 件】(一部抜粋)
・就職の自由が制約されている
・企業が部落のある場所を書いた書籍を買い、採用の時活用している話を聞いた

【差別的言動　14 件】(一部抜粋)
・以前住んでいた家が同和地区にあった為いじめられた
・差別的用語の落書き
・10 才～15 才までの間差別された
・おじがすごく部落差別していた
・差別発言を聞いた

【地区や地区出身者に関する偏見　128 件】(一部抜粋)
・同和地区近辺では住まない方が良いと言われた事がある
・ある地域に住む人は、部落の人だと教えられた
・あの地区に入ったらいけないと言われた
・トラブルになった時に、高圧的に接してくる。暴力的な言動になる時、人が多い
・知人が同和地区出身者で、両親から知人の出身地へ出かけることを注意された
・同和地区出身の友人との付き合いを、あれは地区出身だから付き合わない方がよいと言われた

【同和対策事業に対すること　24 件】(一部抜粋)
・同和地区出身者は、市役所などに就職しやすいと聞いた。実際に多いと思う
・部落の人はいろんな面で特に経済的にものすごく優遇されていると思う

【その他　85 件】（一部抜粋）

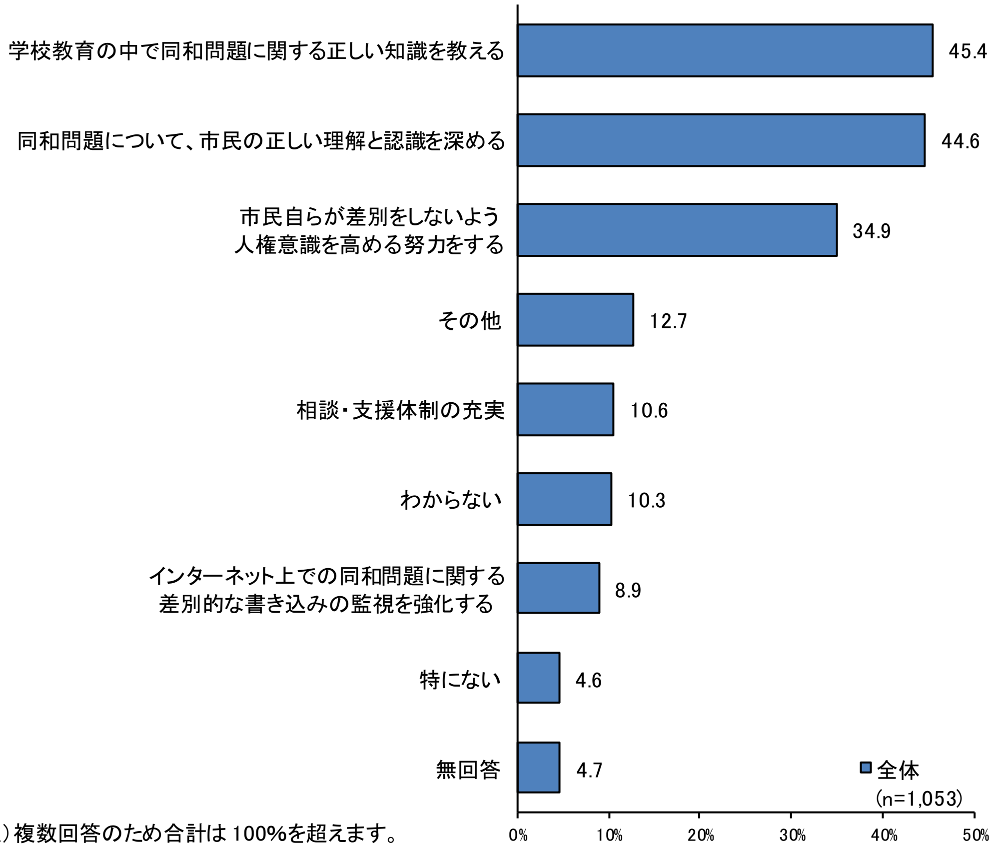
・職場で学習する人権研修に参加したことで結婚の時、地域、識学学級でのことなどを聞いた

・子どもの頃に周りの人たちより耳にした。今は気にしたことはない。

・あまり言いたくない

（８）問５－７　同和問題の解決のために必要だと思うこと

問５－７	（問５で「知っている」とお答えの方に） あなたは、同和問題（部落差別）を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

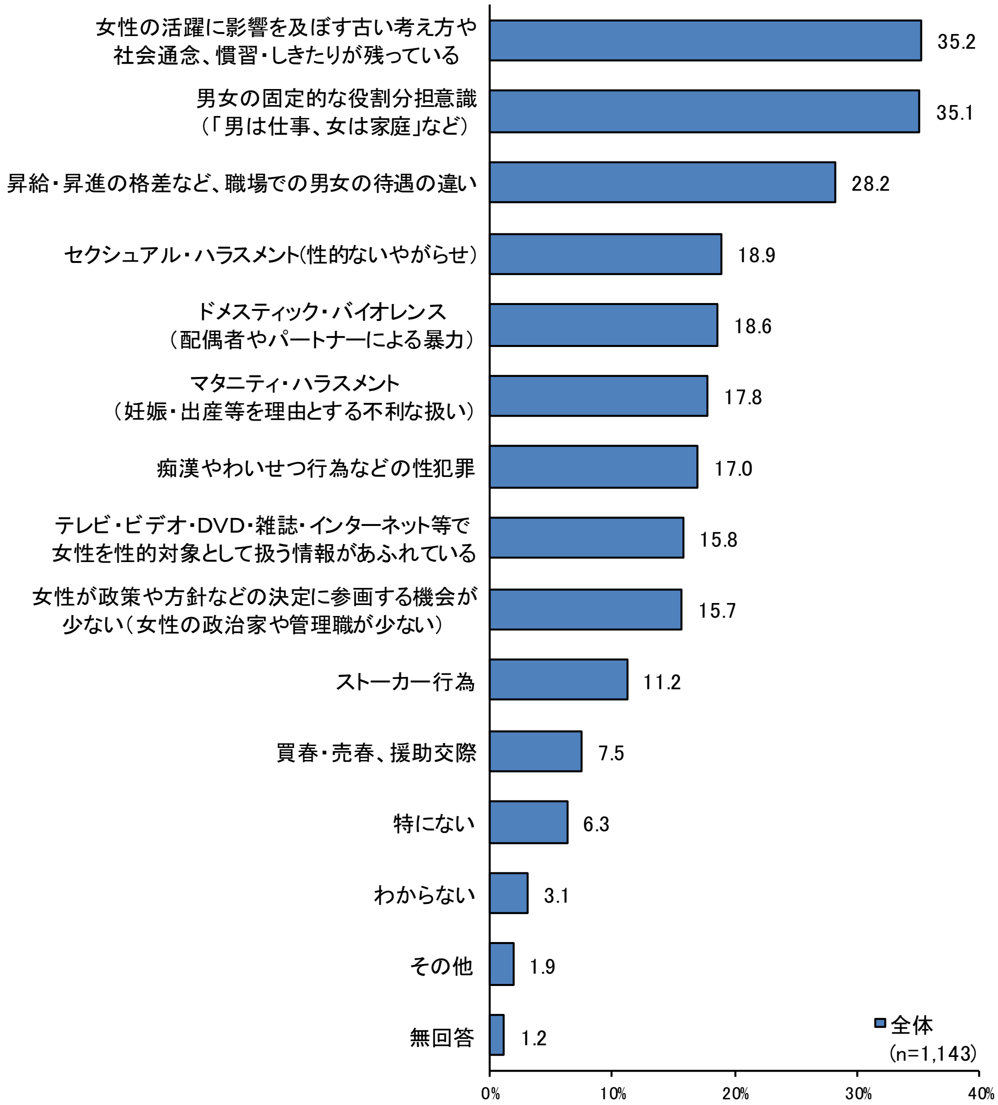
同和問題（部落差別）の解決に必要なことについてみると、「学校教育の中で同和問題に関する正しい知識を教える」の割合が 45.4％で最も高く、次いで「同和問題について、市民の正しい理解と認識を深める」が 44.6％、「市民自らが差別をしないよう人権意識を高める努力をする」34.9％の順となっている。

なお、「その他」の具体的な内容は、「そっとしておけば自然になくなる」「学校教育で取り上げない」「解決は根本的に困難」などである。

3　女性

（１）問６　女性に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問６　女性の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

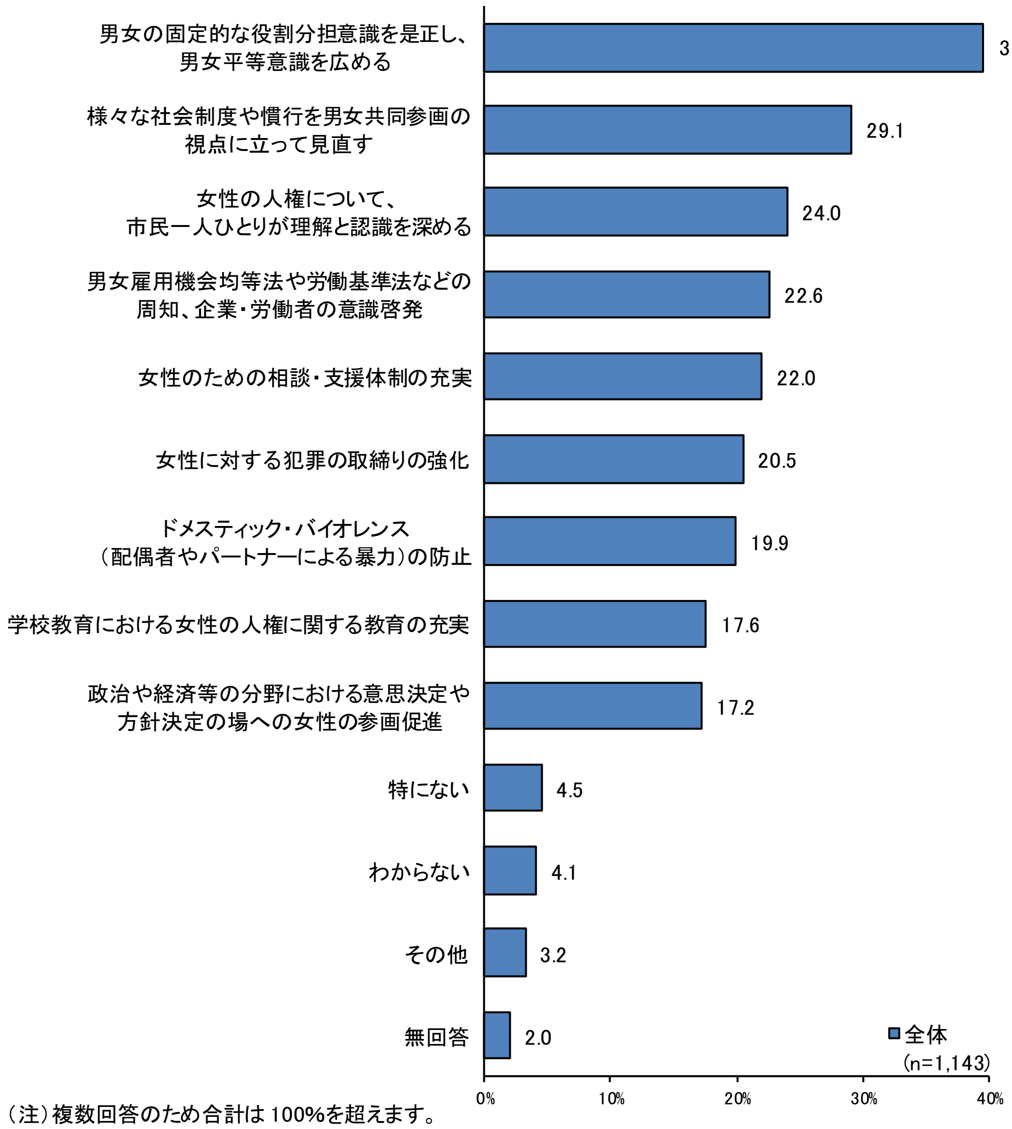


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

女性の人権に関することで特に問題があると思うことについてみると、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っている」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」が 35.1%、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」28.2%の順となっている。

（２）問７　女性の人権を守るために必要だと思われること

問７　女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



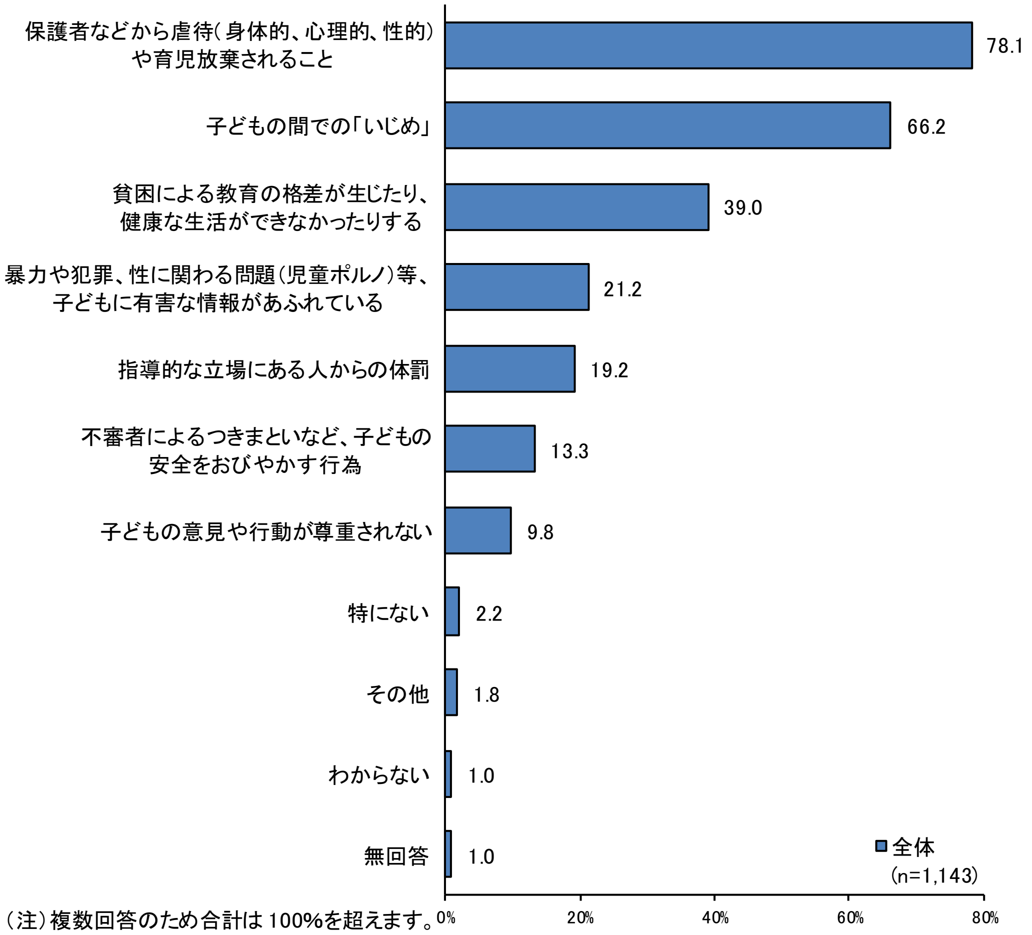
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

女性の人権を守るために必要なことについてみると、「男女の固定的な役割分担意識を是正し、男女平等意識を広める」の割合が 39.6％と最も高く、次いで「様々な社会制度や慣行を男女共同参画の視点に立って見直す」が 29.1％、「女性の人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」24.0％の順となっている。

4　子ども

（１）問８　子どもに関する事柄で、人権上問題があると思われること

問８　子どもの人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。 （〇は３つまで）

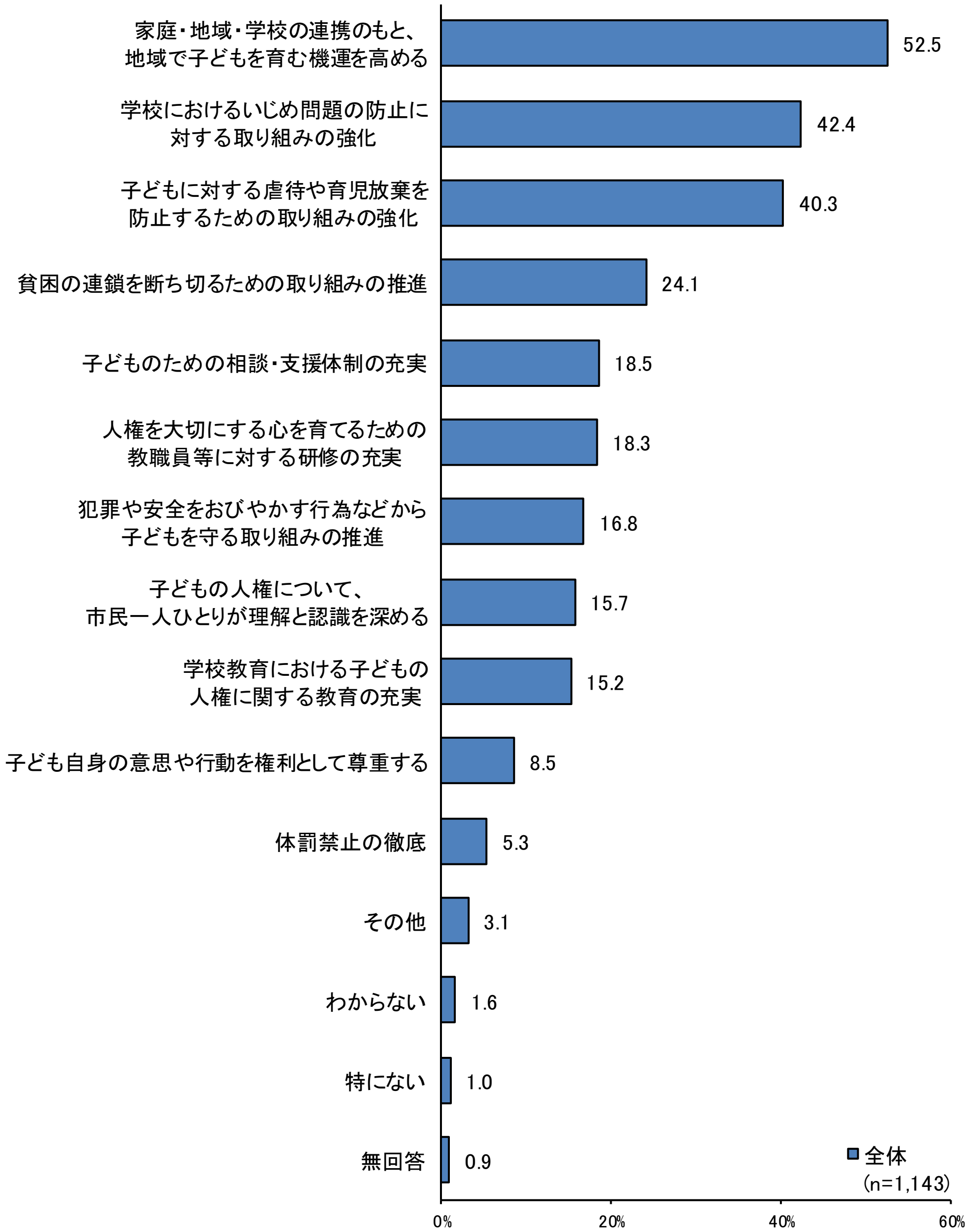


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

子どもの人権に関することで特に問題があると思う項目についてみると、「保護者などから虐待(身体的、心理的、性的)や育児放棄されること」の割合が 78.1%と最も高く、約８割を占めており、次いで「子どもの間での「いじめ」」が 66.2%、「貧困による教育の格差が生じたり、健康な生活ができなかったりする」39.0%の順となっている。

（２）問９　子どもの人権を守るために必要だと思われること

問９　子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



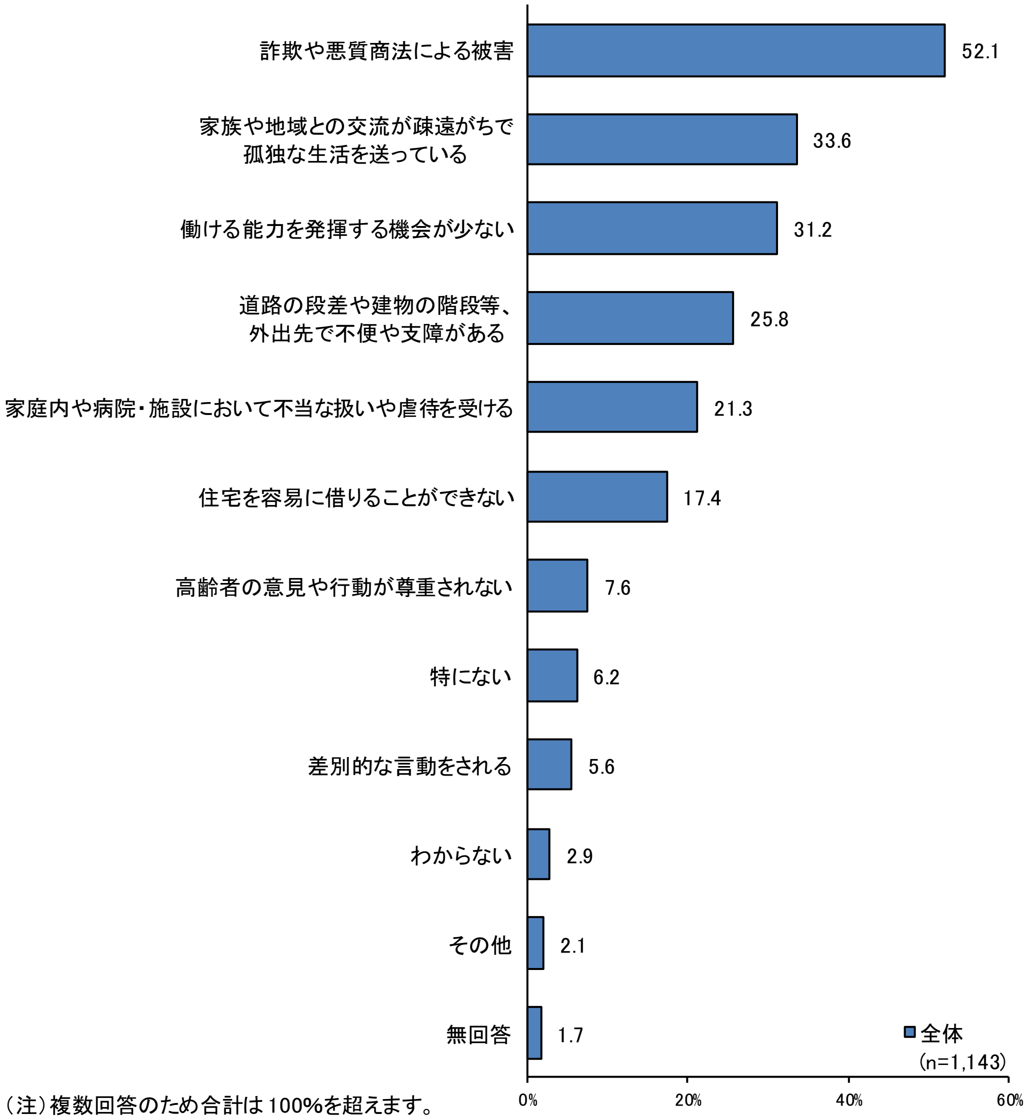
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

子どもの人権を守るために必要なことについてみると、「家庭・地域・学校の連携のもと、地域で子どもを育む機運を高める」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「学校におけるいじめ問題の防止に対する取り組みの強化」が 42.4%、「子どもに対する虐待や育児放棄を防止するための取り組みの強化」40.3%の順となっている。

5　高齢者

（1）問 10　高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 10　高齢者の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

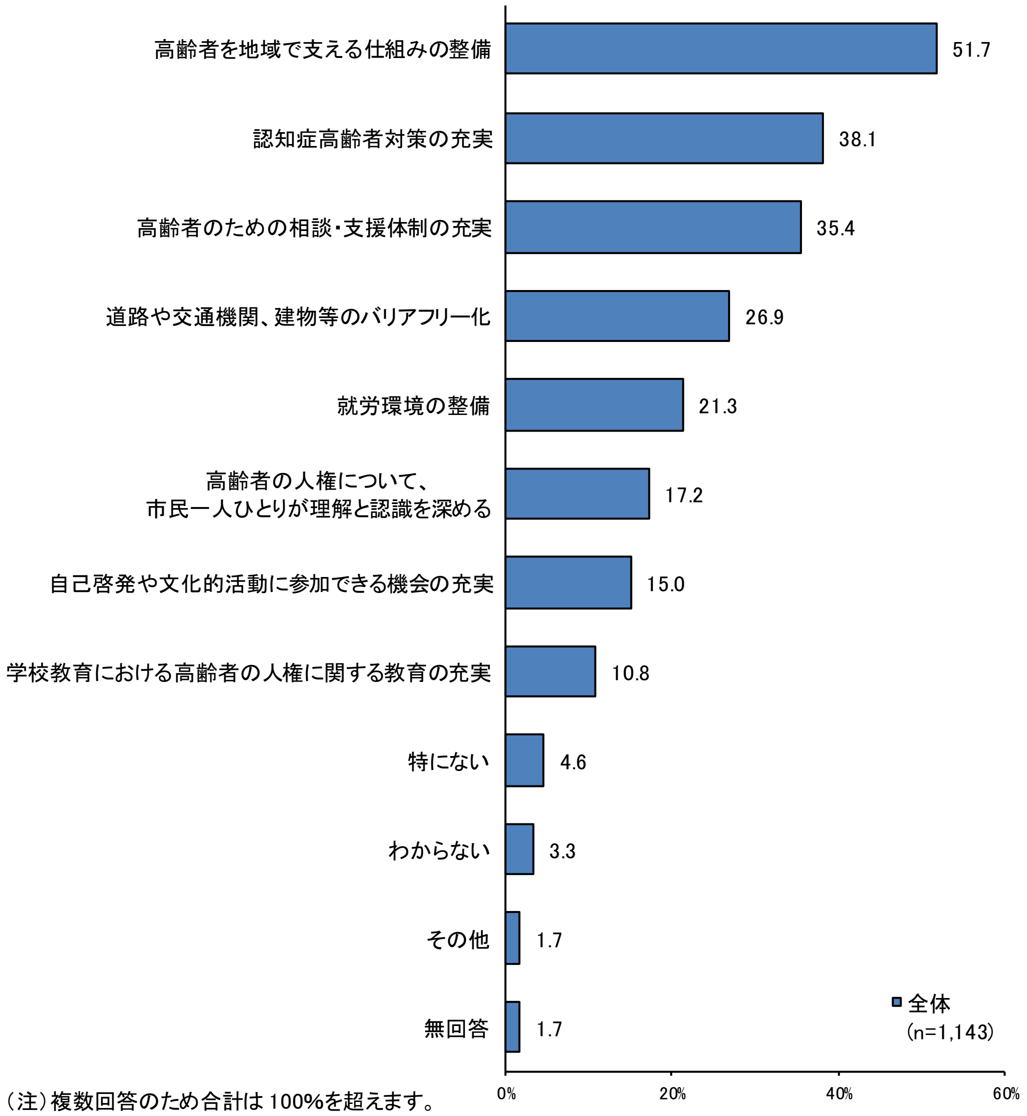


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

高齢者の人権に関することで特に問題があると思う項目についてみると、「詐欺や悪質商法による被害」の割合が 52.1％と最も高く、次いで「家族や地域との交流が疎遠がちで孤独な生活を送っている」が 33.6％、「働ける能力を発揮する機会が少ない」31.2％の順となっている。

（2）問 11　高齢者の人権を守るために必要だと思われること

問 11　高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



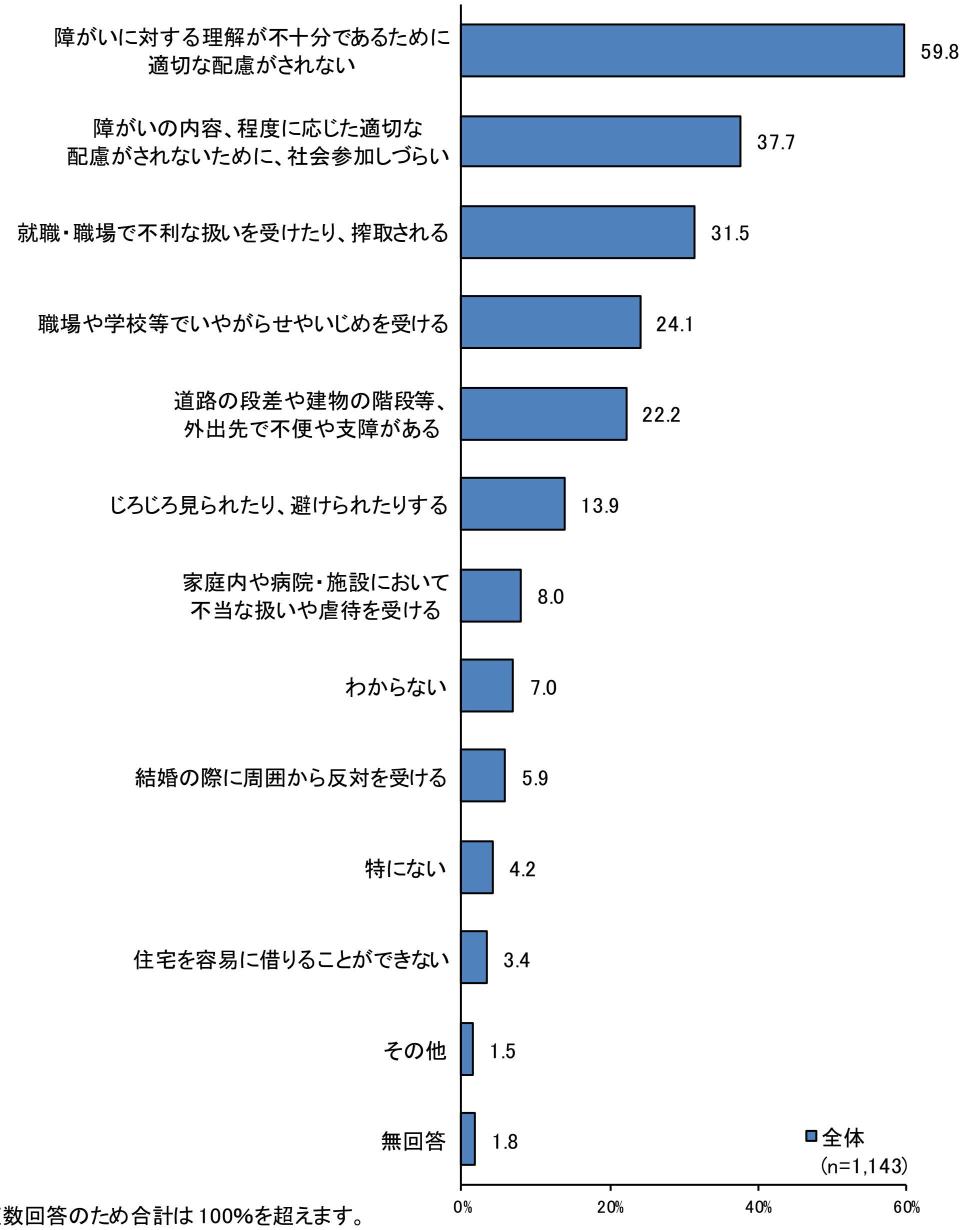
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

高齢者の人権を守るために必要なことについてみると、「高齢者を地域で支える仕組みの整備」の割合が 51.7％で最も高く、次いで「認知症高齢者対策の充実」が 38.1％、「高齢者のための相談・支援体制の充実」35.4％の順となっている。

6　障がいのある人

（1）問 12　障がいのある人に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 12　障がいのある人の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

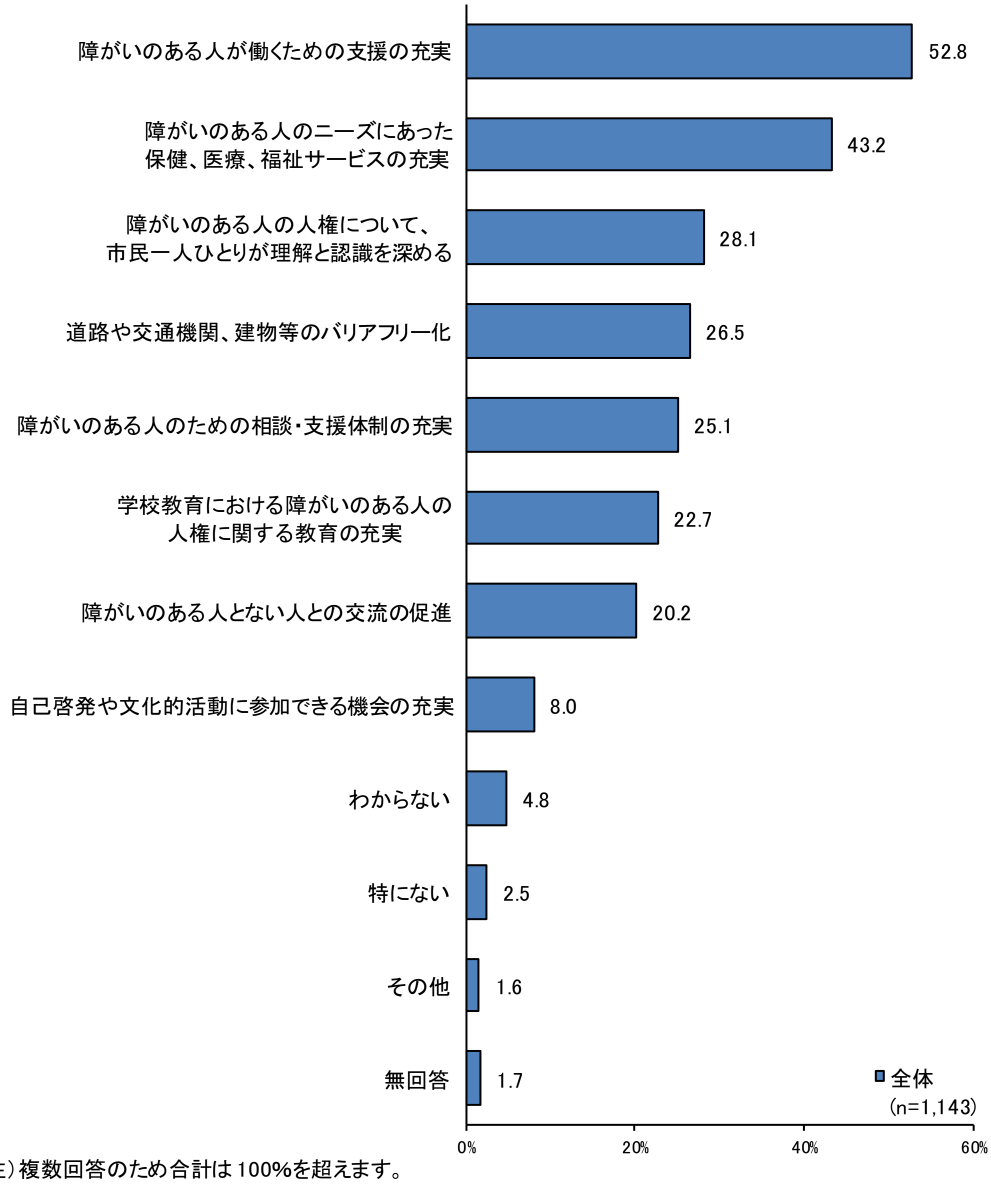


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

障がいのある人の人権に関することで特に問題があると思う項目についてみると、「障がいに対する理解が不十分であるために適切な配慮がされない」の割合が 59.8％で最も高く、次いで「障がいの内容、程度に応じた適切な配慮がされないために、社会参加しづらい」が 37.7％、「就職・職場で不利な扱いを受けたり、搾取される」31.5％の順となっている。

（２）問 13　障がいのある人の人権を守るために必要だと思われること

問 13　障がいのある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



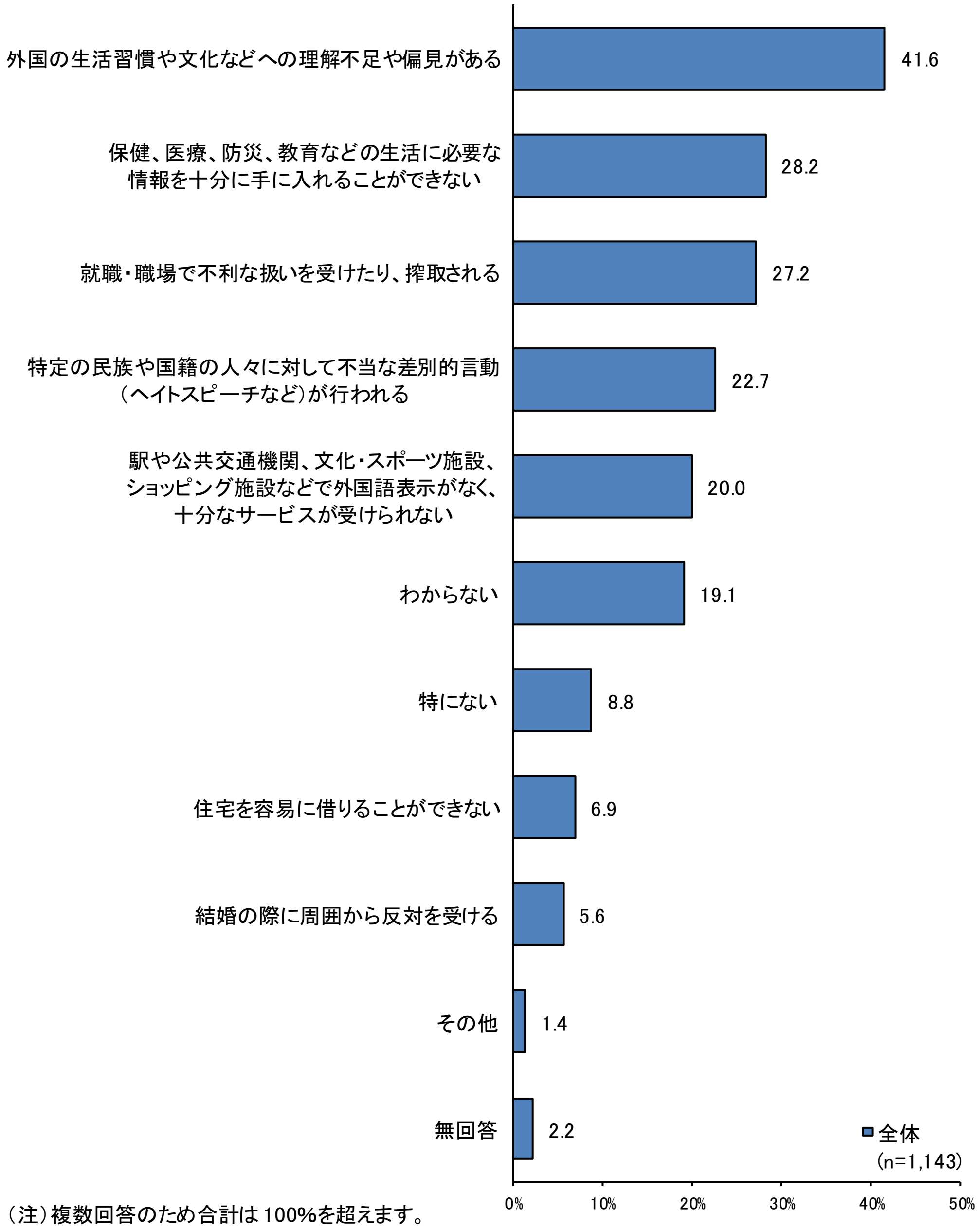
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

障がいのある人の人権を守るために必要なことについてみると、「障がいのある人が働くための支援の充実」の割合が 52.8％で最も高く、次いで「障がいのある人のニーズにあった保健、医療、福祉サービスの充実」が 43.2％、「障がいのある人の人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」28.1％の順となっている。

7　外国人

（１）問 14　外国人に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 14　外国人の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

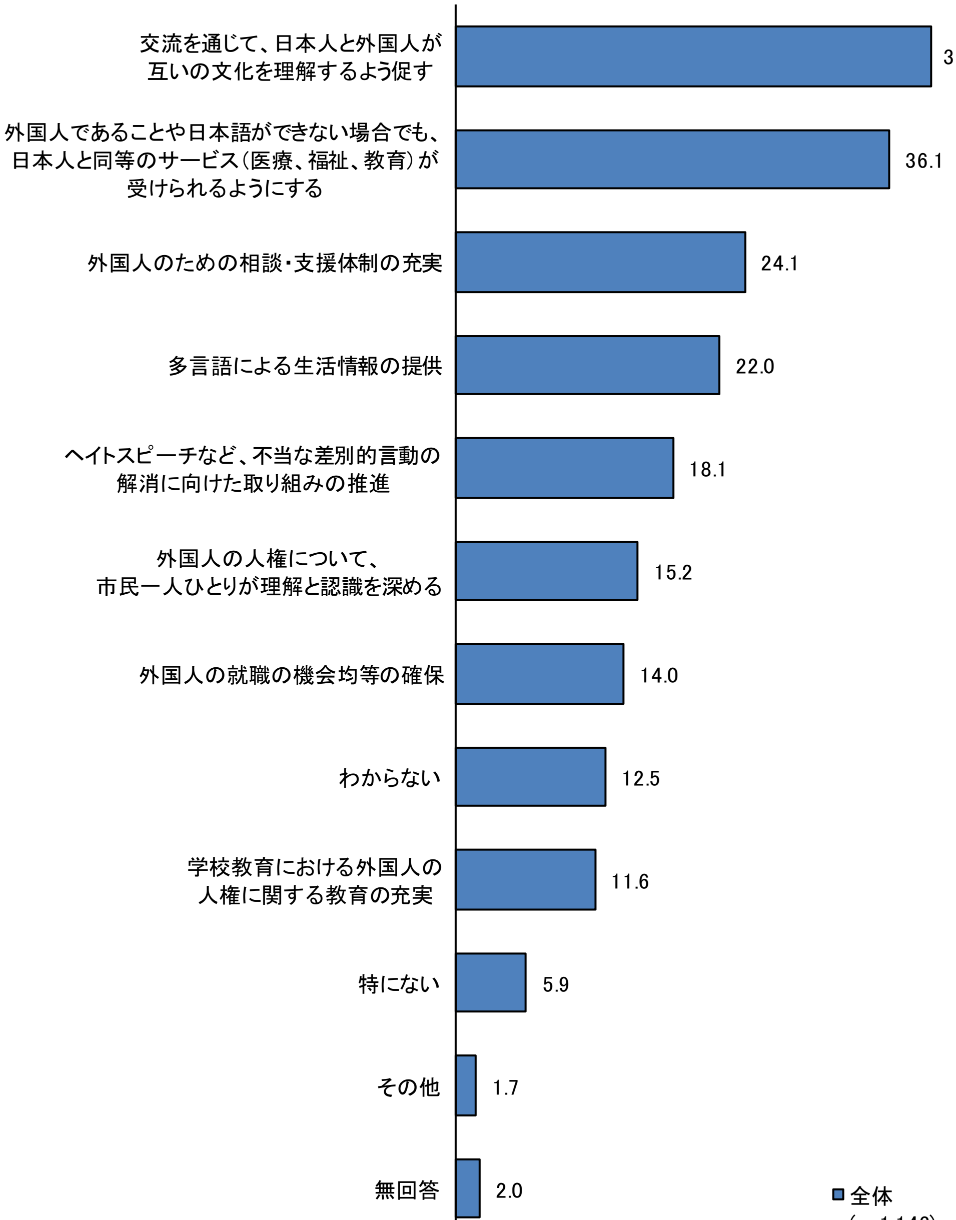


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

外国人の人権に関することで特に問題があると思うことについてみると、「外国の生活習慣や文化などへの理解不足や偏見がある」の割合が 41.6％と最も高く、次いで「保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることができない」が 28.2％、「就職・職場で不利な扱いを受けたり、搾取される」27.2％となっている。

（２）問 15　外国人の人権を守るために必要だと思われること

問 15　外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



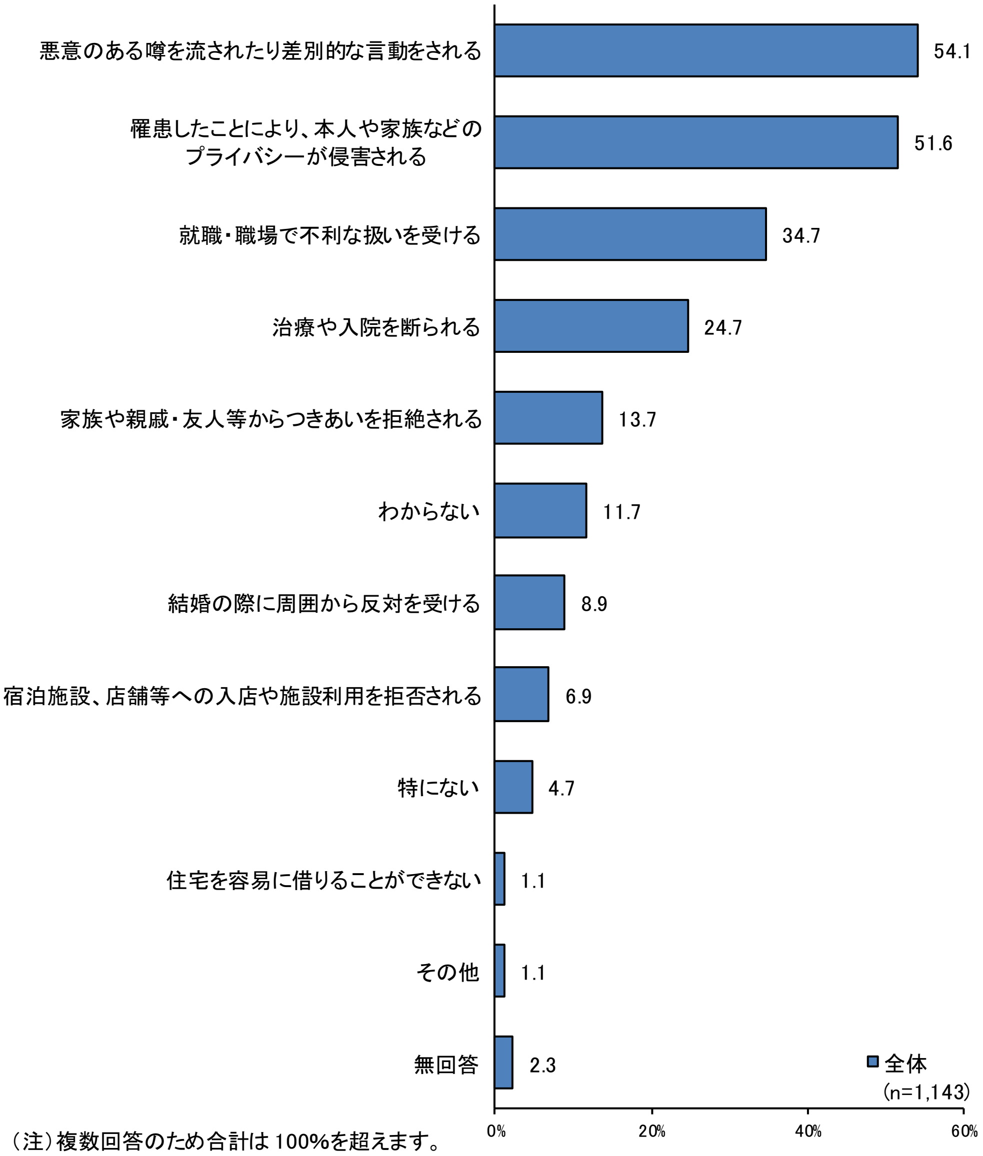
（注）複数回答のため合計は 100％を超えます。

外国人の人権を守るために必要なことについてみると、「交流を通じて、日本人と外国人が互いの文化を理解するよう促す」の割合が 39.7％で最も高く、次いで「外国人であることや日本語ができない場合でも、日本人と同等のサービス（医療、福祉、教育）が受けられるようにする」が 36.1％、「外国人のための相談・支援体制の充実」24.1％の順となっている。

8　感染症患者等

（１）問 16　感染症患者等に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 16　感染症患者等の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

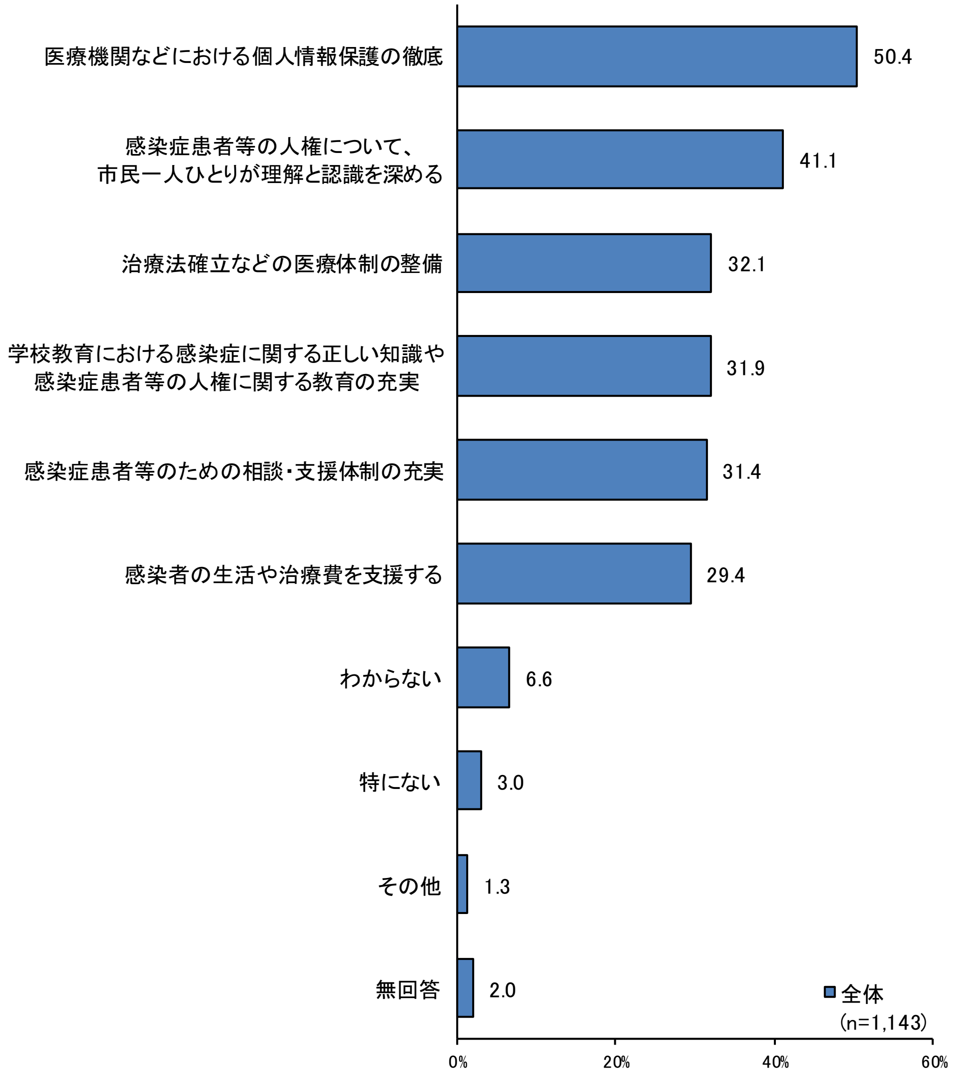


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

感染症患者等の人権に関することで特に問題があると思うことについてみると、「悪意のある噂を流されたり差別的な言動をされる」の割合が 54.1%で最も高く、次いで「罹患したことにより、本人や家族などのプライバシーが侵害される」が 51.6%、「就職・職場で不利な扱いを受ける」34.7%の順となっている。

（2）問 17　感染症患者等の人権を守るために必要だと思われること

問 17　感染症患者等の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



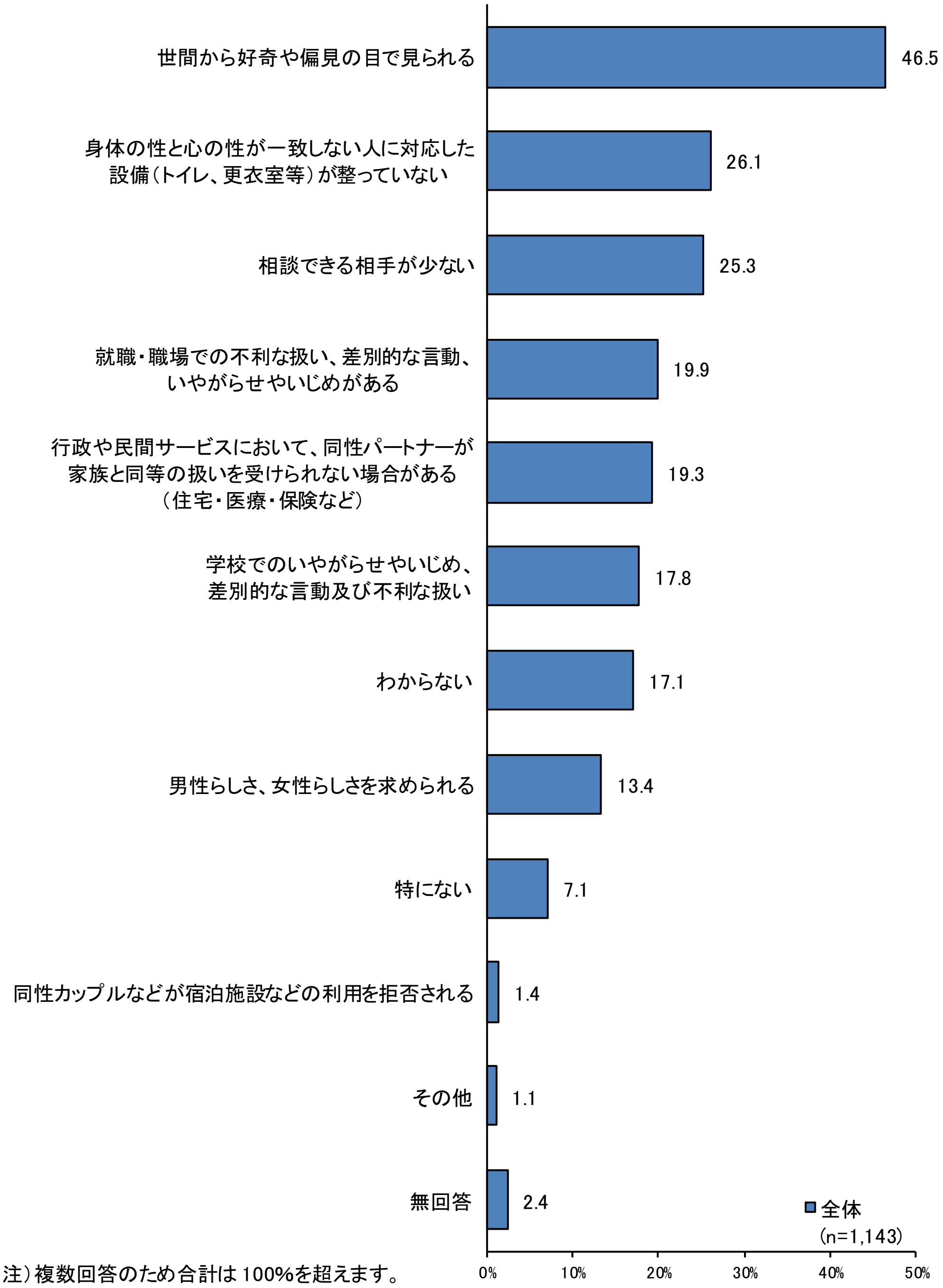
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

感染症患者等の人権を守るために必要なことについてみると、「医療機関などにおける個人情報保護の徹底」の割合が 50.4％で最も高く、次いで「感染症患者等の人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が 41.1％、「治療法確立などの医療体制の整備」32.1％の順となっている。

９　性的指向・性自認

（１）問 18　ＬＧＢＴ等の性的少数者に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 18　ＬＧＢＴ等の性的少数者の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

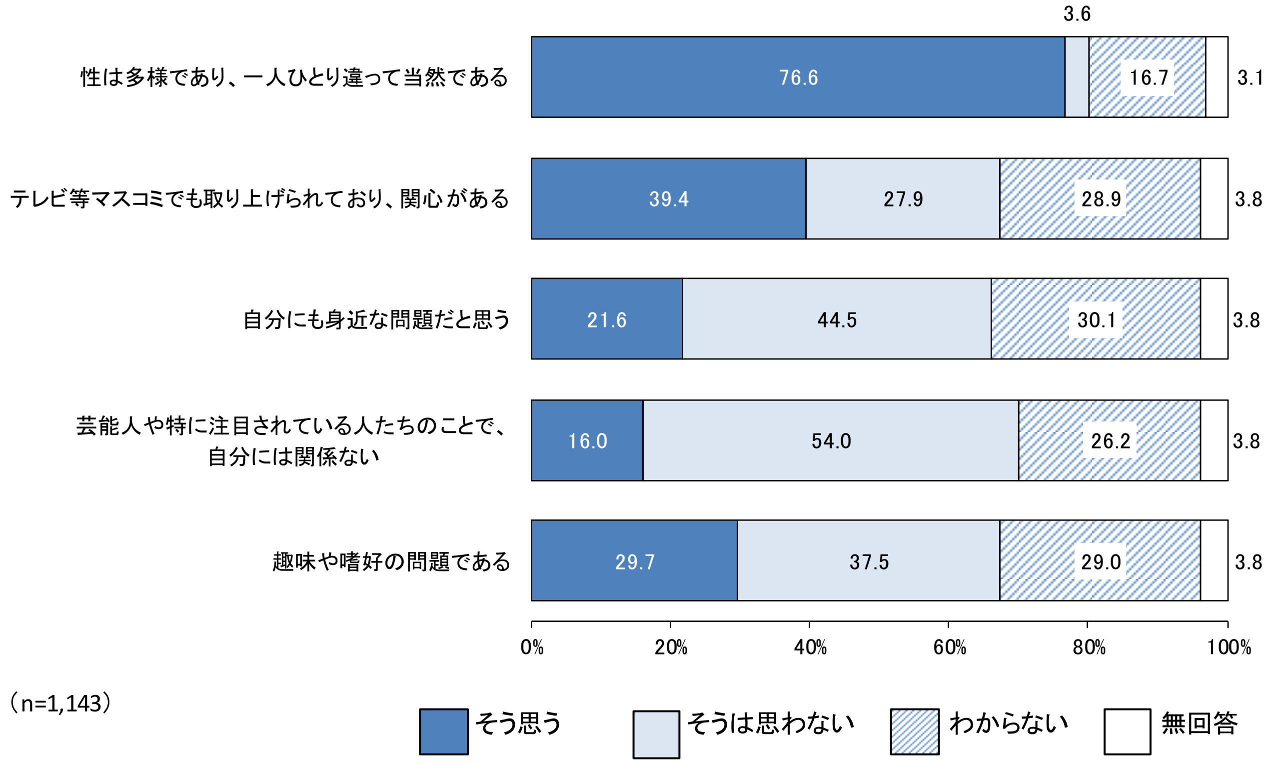


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

ＬＧＢＴ等の性的少数者の人権に関することで、特に問題があると思うことについてみると、「世間から好奇や偏見の目で見られる」の割合が 46.5%で最も高く、次いで「身体の性と心の性が一致しない人に対応した設備（トイレ、更衣室等）が整っていない」が 26.1%、「相談できる相手が少ない」25.3%の順となっている。

（２）問 19　ＬＧＢＴ等の性的少数者について、どのような考えを持っているか

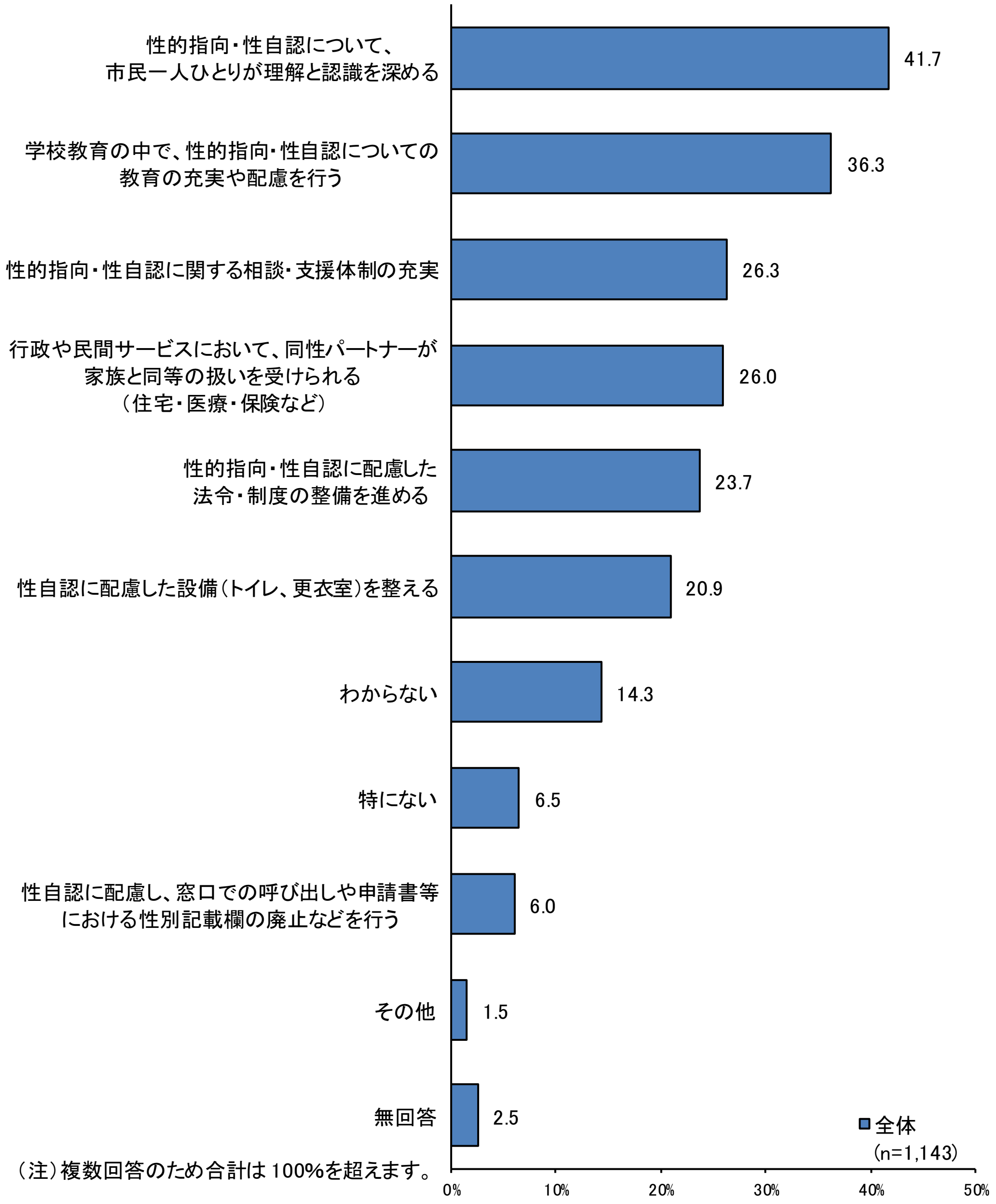
問 19　あなたは、ＬＧＢＴ等の性的少数者について、どのような考えをお持ちですか。（それぞれに○を１つ）



ＬＧＢＴ等の性的少数者についての考えについてみると、そう思うの割合は、「性は多様であり、一人ひとり違って当然である」が 76.6％で最も高く、そうは思わないの割合は、「芸能人や特に注目されている人たちのことで、自分には関係ない」が 54.0％で、最も高くなっている。

（3）問 20　ＬＧＢＴ等の性的少数者の人権を守るために必要だと思われること

問 20　ＬＧＢＴ等の性的少数者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



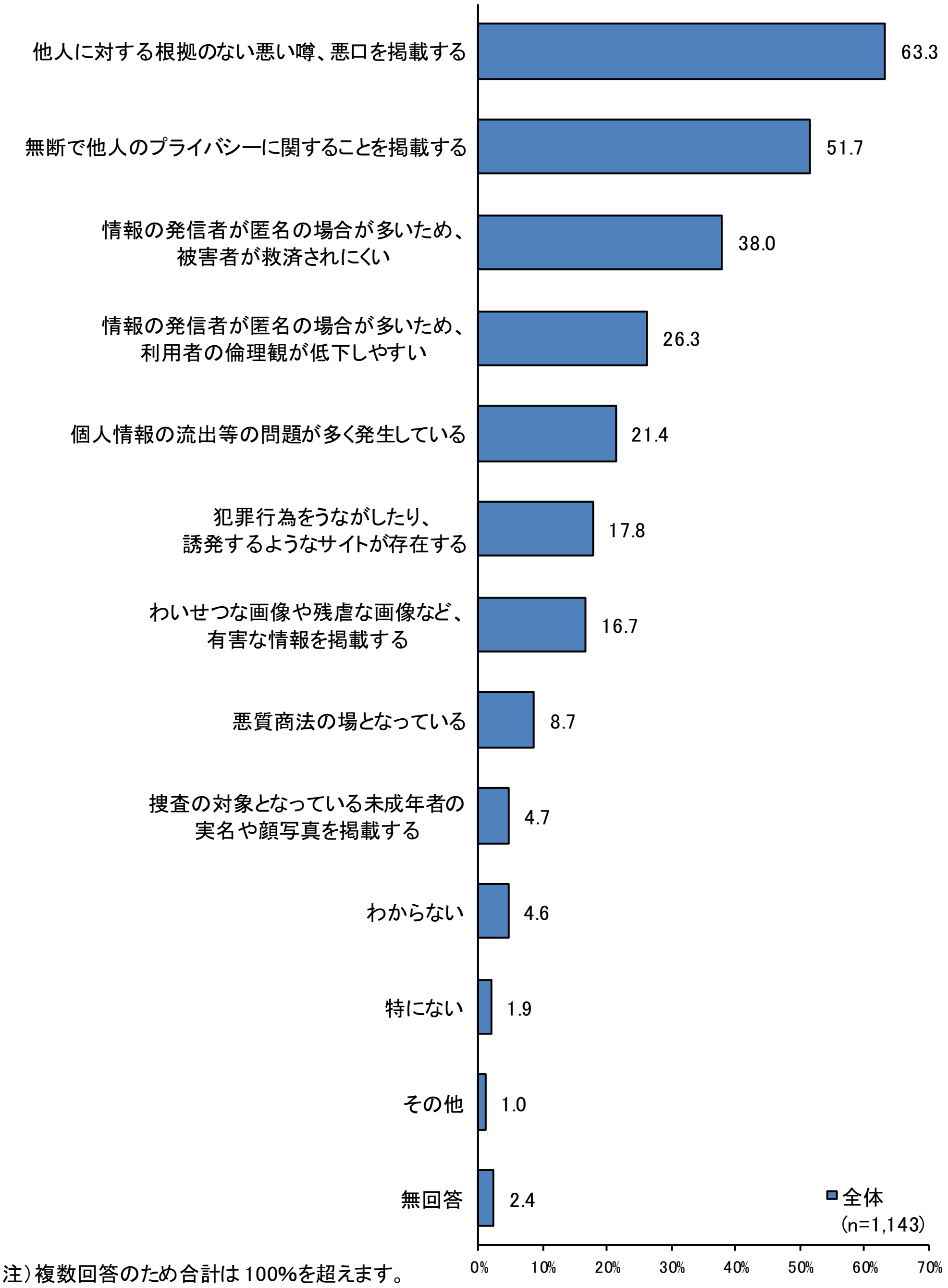
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

ＬＧＢＴ等の性的少数者の人権を守るために必要なことについてみると、「性的指向・性自認について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」の割合が 41.7％と最も高く、次いで「学校教育の中で、性的指向・性自認についての教育の充実や配慮を行う」が 36.3％、「性的指向・性自認に関する相談・支援体制の充実」26.3％の順となっている。

10　インターネットにおける人権侵害

（1）問 21　インターネットにおける人権侵害に関する事柄で、問題があると思われること

問 21　インターネットによる人権侵害に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

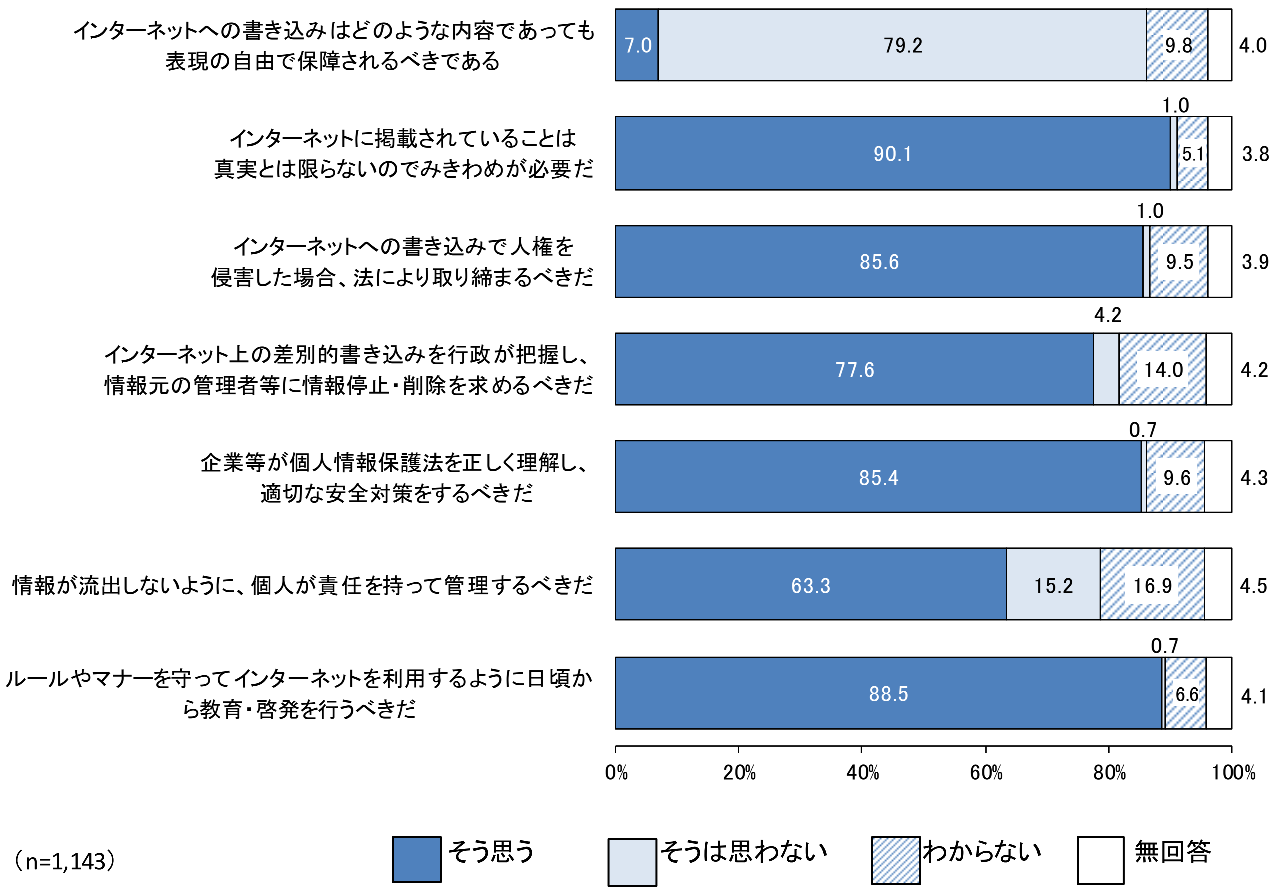


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

インターネットによる人権侵害に関することで、特に問題があると思うことについてみると、「他人に対する根拠のない悪い噂、悪口を掲載する」の割合が 63.3％で最も高く、次いで「無断で他人のプライバシーに関することを掲載する」が 51.7％、「情報の発信者が匿名の場合が多いため、被害者が救済されにくい」38.0％の順となっている。

（２）問 22　インターネットにおける人権侵害について、どのような考えを持っているか

問 22　あなたは、インターネットによる人権侵害について、どのような考えをお持ちですか。（それぞれに○を１つ）

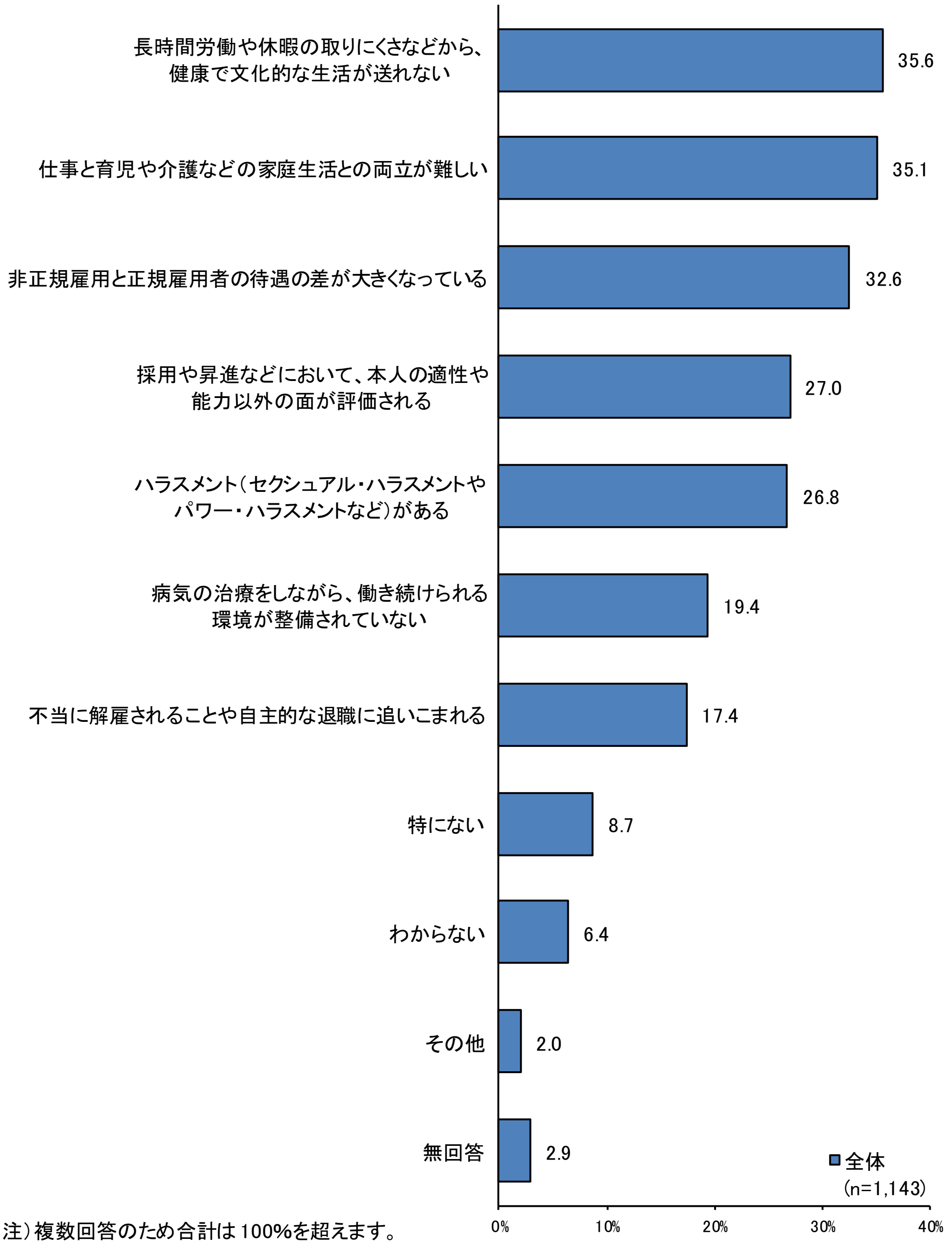


インターネットによる人権侵害についての考えについてみると、そう思うの割合は、「インターネットに掲載されていることは真実とは限らないのでみきわめが必要だ」が 90.1％で最も高く、そうは思わないの割合は、「インターネットへの書き込みはどのような内容であっても表現の自由で保障されるべきである」が 79.2％で、最も高くなっている。また、わからないの割合は「情報が流出しないように、個人が責任を持って管理するべきだ」の割合が 16.9％と最も高くなっている。

11　職場の人権

（1）問 23　職場の人権に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 23　職場に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

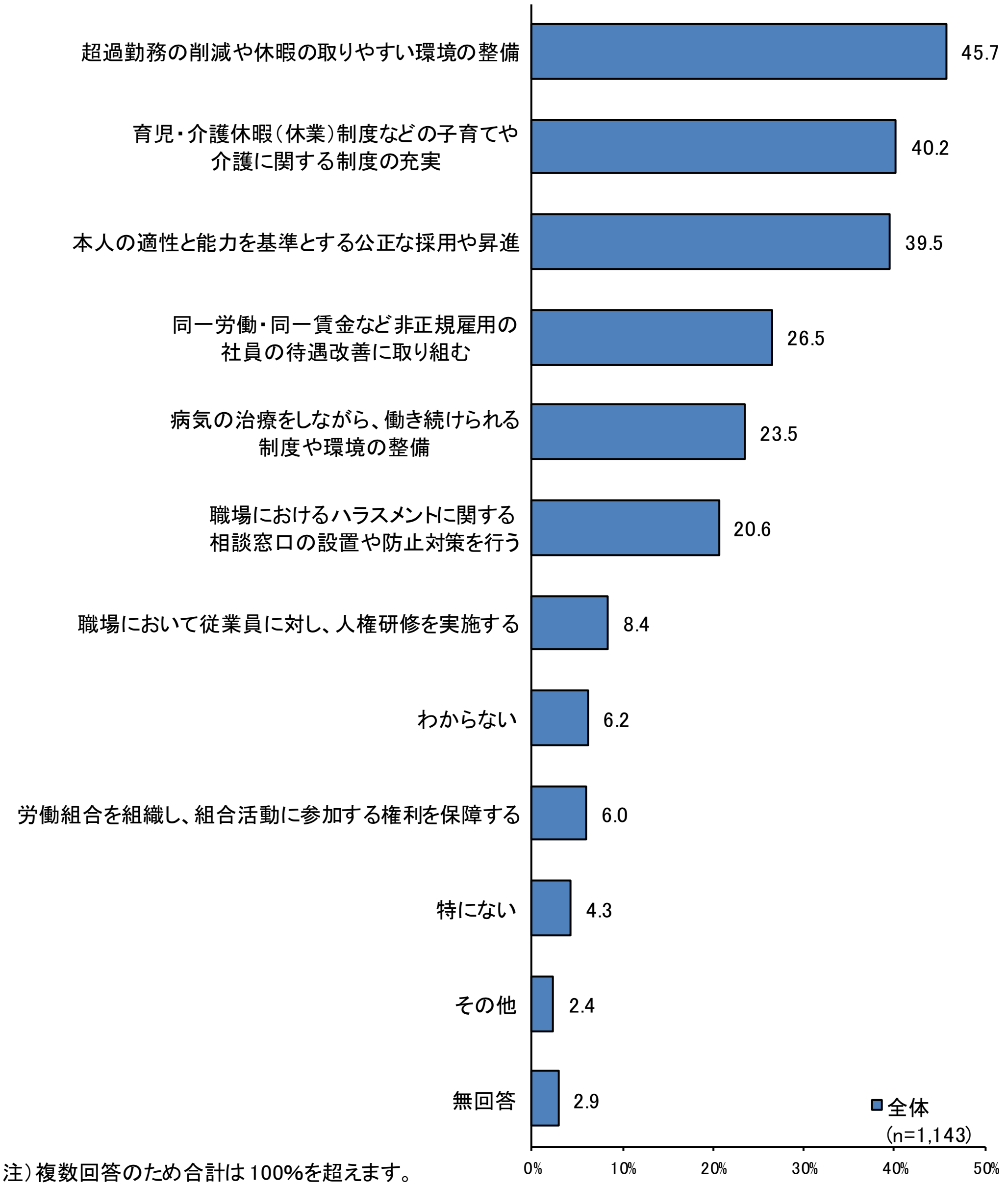


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

職場に関することで、人権上特に問題があると思うことについてみると、「長時間労働や休暇の取りにくさなどから、健康で文化的な生活が送れない」の割合が 35.6%で最も高く、次いで「仕事と育児や介護などの家庭生活との両立が難しい」が 35.1%、「非正規雇用と正規雇用者の待遇の差が大きくなっている」32.6%の順となっている。

（２）問 24　職場の人権を守るために必要だと思われること

問 24　職場での人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



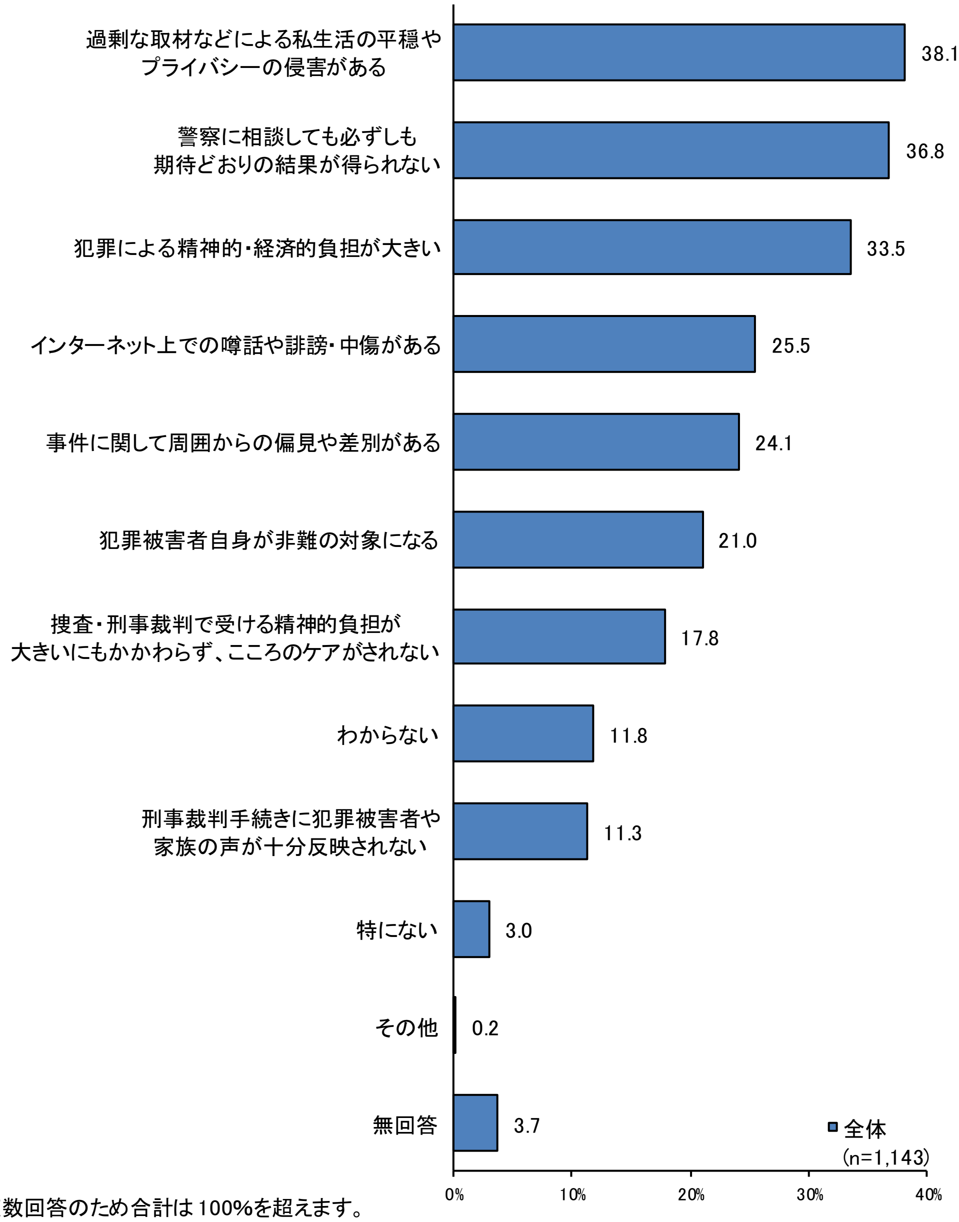
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

職場での人権を守るために必要なことについてみると、「超過勤務の削減や休暇の取りやすい環境の整備」の割合が 45.7％で最も高く、次いで「育児・介護休暇（休業）制度などの子育てや介護に関する制度の充実」が 40.2％、「本人の適性と能力を基準とする公正な採用や昇進」39.5％の順となっている。

12　犯罪被害者等

（１）問 25　犯罪被害者等の人権に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 25　犯罪被害者等の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

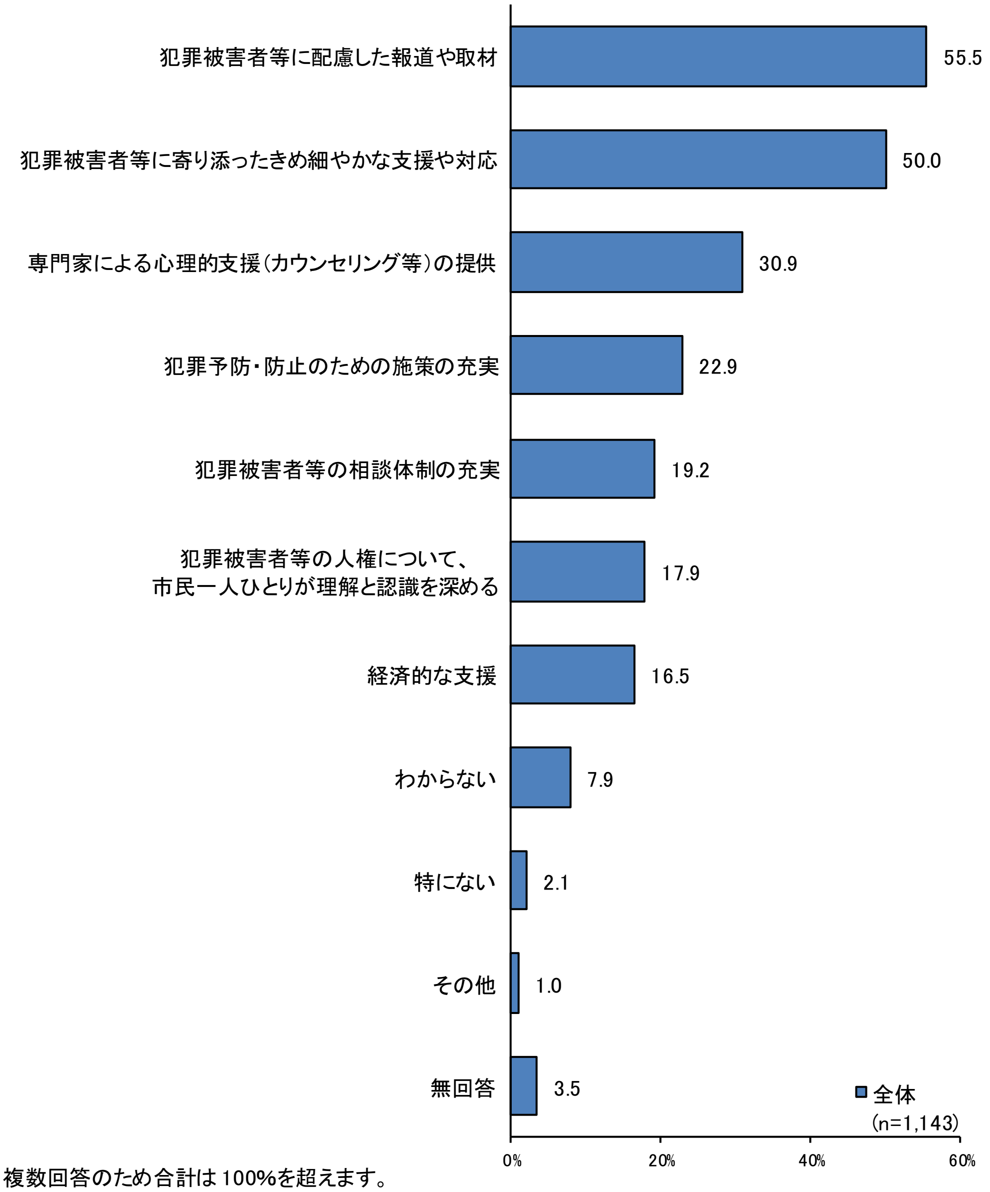


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

犯罪被害者等の人権に関することで、特に問題があると思うことについてみると、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害がある」の割合が 38.1%で最も高く、次いで「警察に相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られない」が 36.8%、「犯罪による精神的・経済的負担が大きい」33.5%の順となっている。

（２）問 26　犯罪被害者等の人権を守るために必要だと思われること

問 26　犯罪被害者等の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



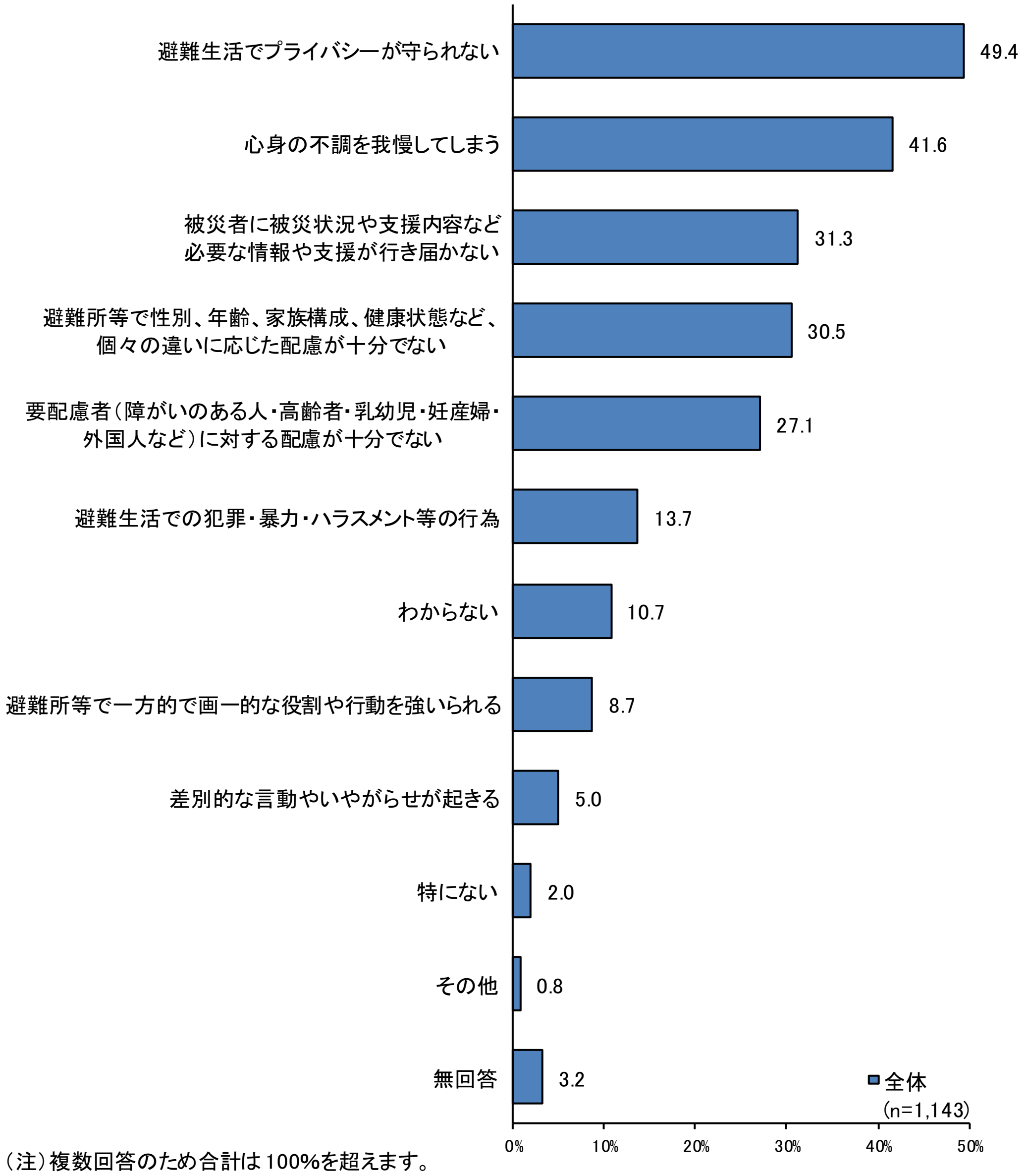
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

犯罪被害者等の人権を守るために必要なことについてみると、「犯罪被害者等に配慮した報道や取材」の割合が 55.5％で最も高く、次いで「犯罪被害者等に寄り添ったきめ細やかな支援や対応」が 50.0％、「専門家による心理的支援（カウンセリング等）の提供」30.9％の順となっている。

13　災害と人権

（1）問 27　災害に関する事柄で、人権上問題があると思われること

問 27　災害時に生じることで、人権上、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。（〇は３つまで）

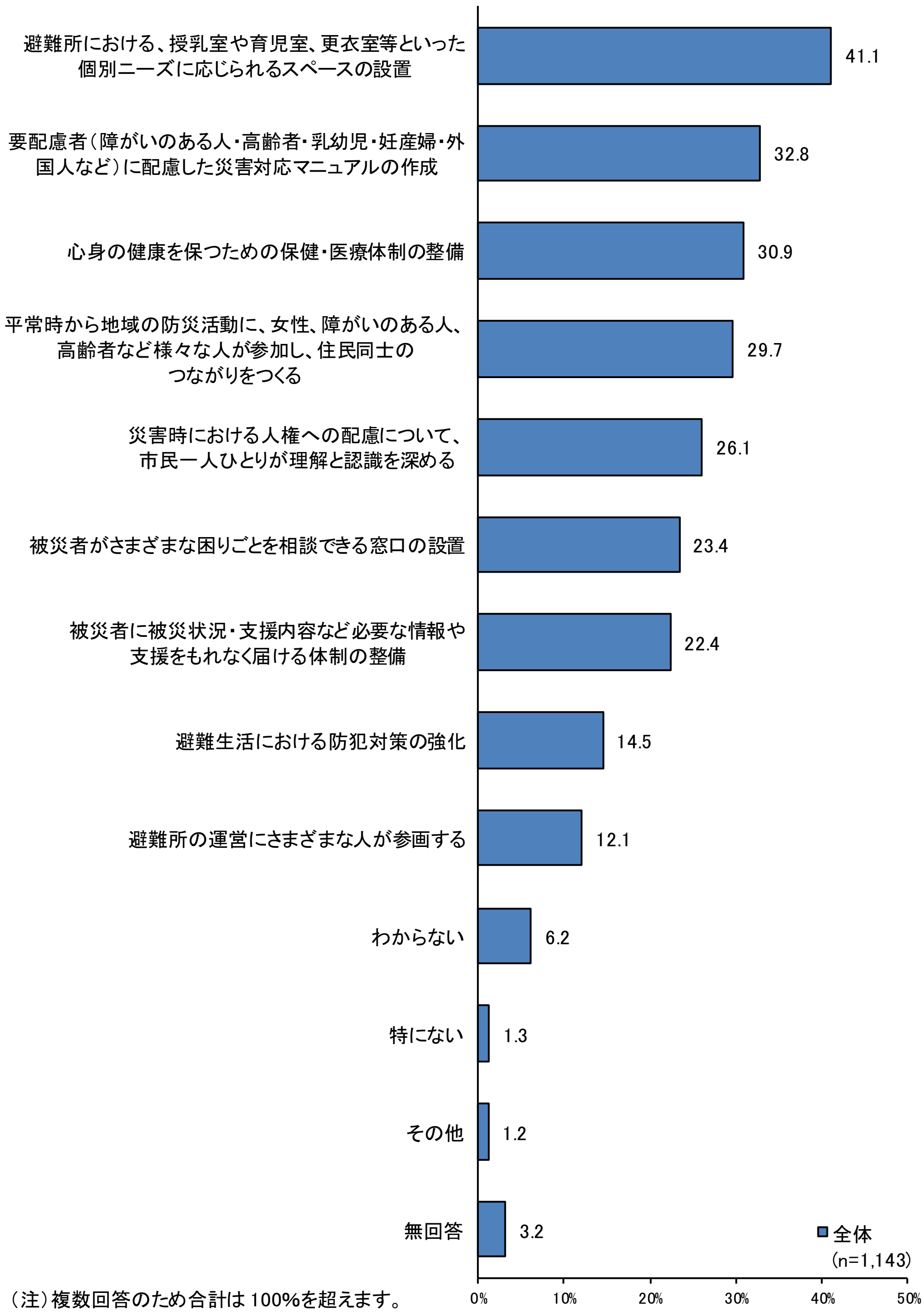


（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

災害時に生じることで、人権上特に問題があると思うことについてみると、「避難生活でプライバシーが守られない」の割合が 49.4%で最も高く、次いで「心身の不調を我慢してしまう」が 41.6%、「被災者に被災状況や支援内容など必要な情報や支援が行き届かない」31.3%の順となっている。

（２）問 28　災害時に人権を守るために必要だと思われること

問 28　災害時に人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



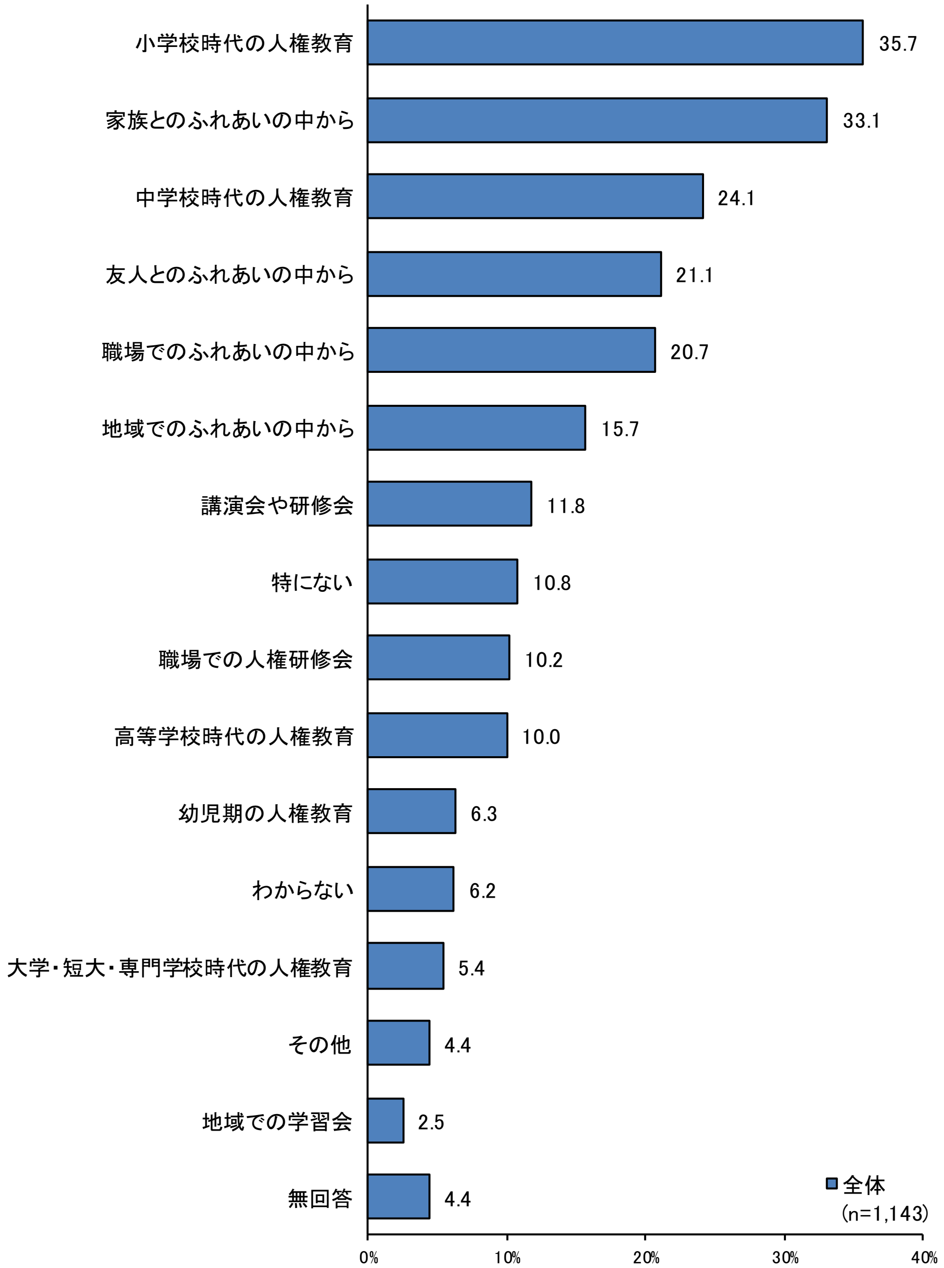
（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

災害時に人権を守るために必要だと思うことについてみると、「避難所における、授乳室や育児室、更衣室等といった個別ニーズに応じられるスペースの設置」の割合が 41.1％で最も高く、次いで「要配慮者（障がいのある人・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人など）に配慮した災害対応マニュアルの作成」が 32.8％、「心身の健康を保つための保健・医療体制の整備」30.9％の順となっている。

14　今後の人権教育・啓発のあり方に関する意識等

（1）問 29　人権尊重の考え方に強い影響を受けたもの

問 29　あなたが、人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思うものは次のうちどれですか。（○はいくつでも）



（注）複数回答のため合計は 100%を超えます。

人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思うものについてみると、「小学校時代の人権教育」の割合が 35.7%で最も高く、次いで「家族とのふれあいの中から」が 33.1%、「中学校時代の人権教育」24.1%の順となっている。

（2）問 29-１　人権尊重の考え方に強い影響を受けたものの内容

問 29-1　（問 29 で「１」～「13」に〇をされた方に） **それはどのような内容でしたか。お構いない範囲でご記入ください。**

人権尊重の考え方に強い影響を受けたものの内容については 369 件あり，その内容を要約し分類した結果は以下のとおりである。

【学校での人権教育など　123 件】（一部抜粋）
・授業で同和問題学習
・学校の授業の中で人権（いじめや差別）について勉強した
・道徳の授業など
・小学校の頃、学校で同和教育を受け、自分もそこの出身者なのか気になった

【家族や友人から　67 件】（一部抜粋）
・母親が人間的にとても良く出来た人だったと思う
・部落に住んでいる友人との関わりなどから，友人は友人、どこにいようと関係ないと思った。また，親世代の方が理解していないと思った。
・父親から人間は生まれながらにして平等だという事を、幼少期より折にふれて聞かされて育ったので
・幼児期、母親からやってはいけないことを教わった
・親からの“しつけ”が大きいと思う。“人に迷惑を掛けない”“自分が相手の身になったらどう思うか”などと考えることが必要だと思う
・外国人の友人ができると、問題が身近になる
・LGBT の友人の話などを聞いたりした
・人権侵害を受けている方からの話

【職場関係　22 件】（一部抜粋）
・実際に職場で特別な支援のいる人に接している
・職場にゲイの方がいて、周りがそれを尊重していた
・職場の同僚に同和地区の方が多くいた
・電動車椅子の職員と一緒に仕事をしたこと、職場で人権業務を担当したこと
・職場でグループに分かれて人権について勉強した
・職場内での正社員とパート・アルバイトの立場の違い

【講演会・研修会など　30 件】（一部抜粋）
・防災の講演会
・高知市の講演会で部落差別について聞いたこと
・同和研修会などで学んだこと
・道徳、講演会
・障害者にとってよりよい制度などの学習会
・体験学習発表会
・沖縄での人権集会

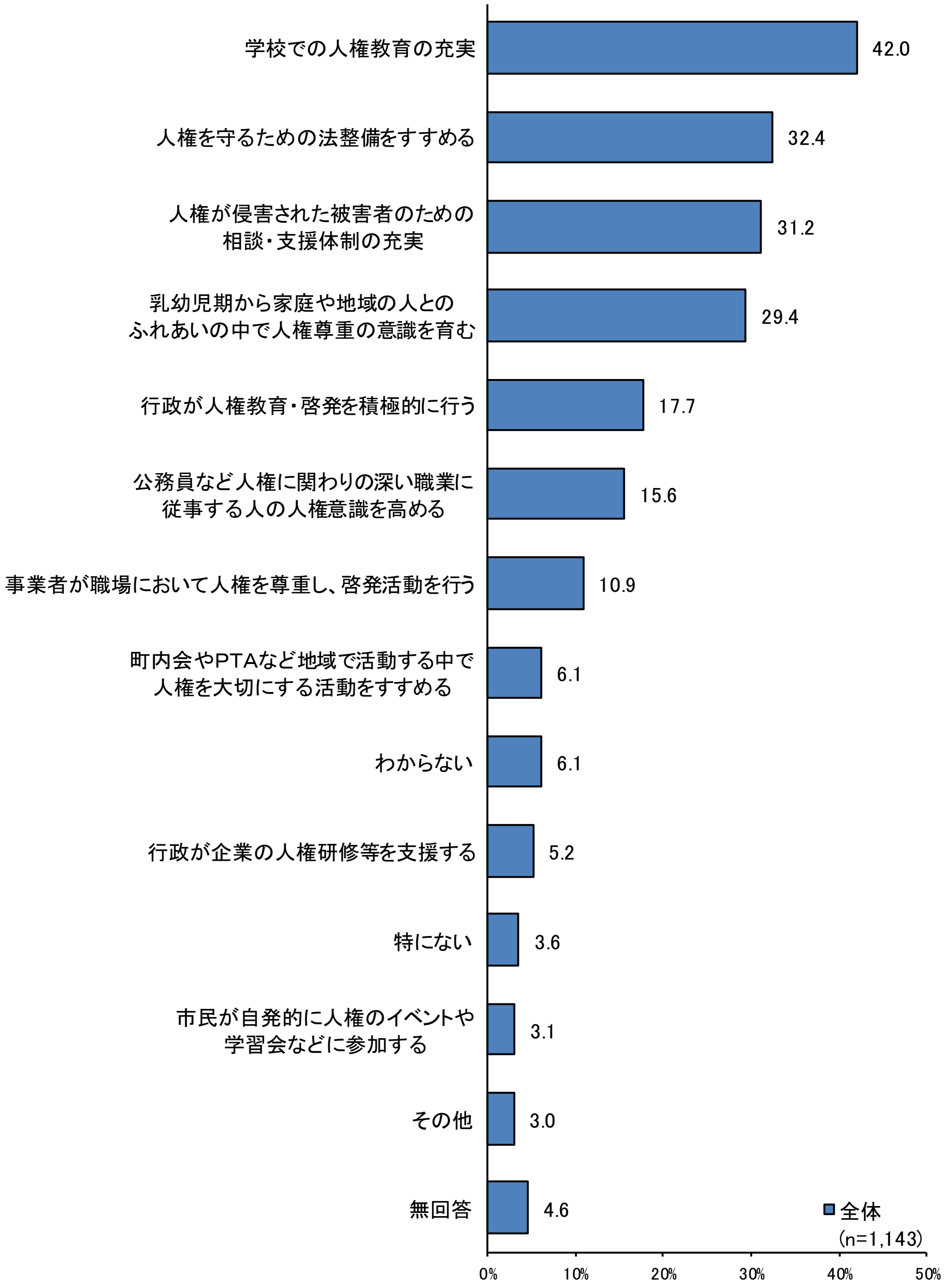
・地域の人権に関する研修会、学習会（講演の後、意見交換の実施）

【地域でのふれあいから　5件】（一部抜粋）
・日常生活の中で，高齢者，子ども，障がい者等の方々に対して，自分にできることは何かと考えたこと
・障がいをもつ子どもたちの保育園でのボランティア
・障がい者と接する中で

【その他　122件】（一部抜粋）
・LGBTやインターネットでの人権侵害など
・最近ではBlack　lives　Matterの運動をSNSで目にし、映画13thを見た
・ナチスによるアウシュビッツ収容所でのユダヤ人虐殺、神風特攻隊といわれた若者たちの尊い犠牲、日々目にする幼児虐待や性犯罪など凶悪卑劣な事件、ハンセン病患者の隔離、差別の歴史など、理不尽な扱いをうけた方々の苦しみや悲しみ悲惨さを知った時に人権とは何なのか強く考えさせられた。
・部落差別について、精神障害者の就労について、核戦争について、視聴覚障害者の支援について
・部落差別やLGBTについて、差別される人の気持ちを考えるきっかけとなる内容
・ハンセン病関係
・いろいろな世界の本を読むことで人種、階級、経済格差、性別などの問題を知ることができた
・普段の生活の中で、テレビや新聞などのさまざまな情報から問題点を学習できる

（３）問 30　人権尊重の社会実現のために必要なこと

問 30　あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、今後特に必要だと思うのは次のうちどれですか。（○は３つまで）

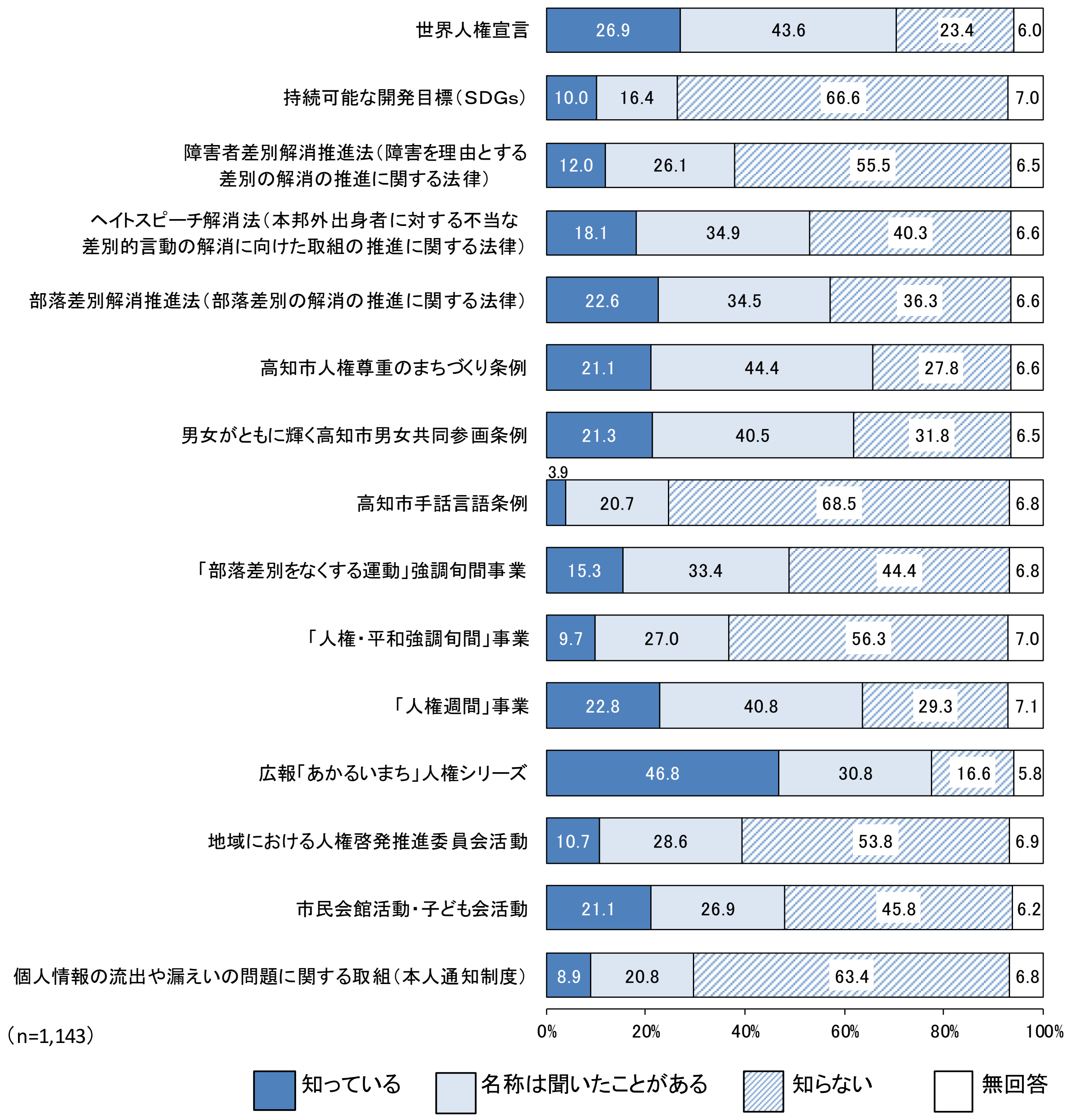


（注）複数回答のため合計は100%を超えます。

人権が尊重される社会を実現するために、今後特に必要だと思うことについてみると、「学校での人権教育の充実」の割合が 42.0％で最も高く、次いで「人権を守るための法整備をすすめる」が 32.4％、「人権が侵害された被害者のための相談・支援体制の充実」31.2％の順となっている。

（４）問31　人権に関する宣言等や取組について知っているか

問31　あなたは、次の（ａ）から（ｏ）の人権に関する宣言や条例、市の取り組みについてどの程度ご存知ですか。（それぞれに〇を１つ）



人権に関する宣言や条例、市の取り組みについての認知度をみると、「知っている」の割合は、15 項目中「広報「あかるいまち」人権シリーズ」が 46.8％で最も高く、他の項目と比べて特に認知度が高くなっている一方で、「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」、「高知市手話言語条例」、「個人情報の流出や漏えいの問題に関する取組（本人通知制度）」は、知らないの割合が６割を超えており、他の項目と比べて特に認知度が低くなっている。

また、「世界人権宣言」、「高知市人権尊重のまちづくり条例」、「男女がともに輝く高知市男女共同参画条例」、「「人権週間」事業」は、名称は聞いたことがあるの割合が４割を超えており、他の項目と比べて高くなっている。

令和２年度　人権に関する市民の意識調査報告書 概要版
発行　高知市市民協働部人権同和・男女共同参画課
〒780-8571　高知市本町五丁目１－４５
ＴＥＬ　０８８－８２３－９４４９
ＦＡＸ　０８８－８２３－９３５１